

平成 20 年度

掛之上遺跡70・75・77

— 写真図版編 —

2009

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

平成 20 年度

掛之上遺跡70・75・77

－ 写真図版編 －

2009

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

例 言

1. 本書は、平成20年度に袋井市教育委員会と袋井市役所都市建設部区画整理課が実施した、掛之上^{かけのうえ}遺跡の第70・75・77次発掘調査報告書写真図版編（臨時交付金予算分報告書）である。ただし、第70次発掘調査区では隣接した区画道路13号線の調査区と一体化しているため本報告書で報告した。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所都市建設部区画整理課公共施行係が行った。特に、公共施行係の杉山典克、小池恵子、杉山資治、藤原資郎、大澤勇人、奥野山誠の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中全景写真については株式会社フジヤマが撮影したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第70次-1 発掘調査区空中写真全景
(2) 第75次-1 発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版2 (1) SH8・9 (2) 第75次-2 発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版3 (1) 第77次発掘調査区空中写真全景
(2) 第77次発掘調査区空中写真全景
- 図版1 (1) 第70次-1 発掘調査区空中写真遠景 (2) 第70次-1 発掘調査区空中写真全景
- 図版2 (1) 第70次-1 発掘調査区空中写真全景 (2) 第70次-1 発掘調査区全景
- 図版3 (1) SB52・53 (2) SB52
- 図版4 (1) SB53 (2) SD30・34
- 図版5 (1) 西壁南端土層 (2) 第70次-2 発掘調査区全景
- 図版6 (1) SH3SP14 (2) SK72
- 図版7 (1) 重機による表土掘削 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版8 (1) 第75次-1 発掘調査区空中写真全景 (2) 第75次-1 発掘調査区空中写真全景
- 図版9 (1) 第75次-1 発掘調査区空中写真全景 (2) 第75次-1 発掘調査区全景
- 図版10 (1) SB15・22 (2) SB22貯蔵穴
- 図版11 (1) SB16 (2) SB17
- 図版12 (1) SB17炉跡 (2) SH8・9 空中写真
- 図版13 (1) SH8・9 空中写真 (2) SH8・9
- 図版14 (1) SH9SP129 (2) SH9SP76
- 図版15 (1) SD7 (2) SD10・15
- 図版16 (1) SK63・64 (2) SK66・67
- 図版17 (1) SK66出土小型壺 (2) 調査区北壁中央土層
- 図版18 (1) 第75次-2 発掘調査区空中写真全景 (2) 第75次-2 発掘調査区空中写真全景
- 図版19 (1) 第75次-2 発掘調査区空中写真全景 (2) 第75次-2 発掘調査区全景
- 図版20 (1) 第75次-2 発掘調査区全景 (2) SB16a・b
- 図版21 (1) SB16a・b (2) SB16かまど跡1
- 図版22 (1) SB16かまど跡2 (2) SB17
- 図版23 (1) SB17炉跡 (2) SB18・19
- 図版24 (1) SB18 (2) SB19
- 図版25 (1) SB20・SH10 (2) SH10~SH12
- 図版26 (1) SB20貯蔵穴 (2) SK71
- 図版27 (1) 調査区南壁中央土層 (2) 重機による表土掘削作業
- 図版28 (1) 作業員による遺構調査作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版29 (1) 第77次発掘調査区空中写真全景 (2) 第77次発掘調査区空中写真全景
- 図版30 (1) 第77次発掘調査区西半部分空中写真全景 (2) 第77次発掘調査区西半部分空中写真全景
- 図版31 (1) 第77次発掘調査区西半部分空中写真全景 (2) 第77次発掘調査区西半部分全景
- 図版32 (1) 第77次発掘調査区東半部分空中写真全景 (2) 第77次発掘調査区東半部分空中写真全景

図版33 (1) S B14 (2) S B14炉跡

図版34 (1) S B15 (2) S D19

図版35 (1) S D27 (2) S D31

図版36 (1) S D41 (2) S D42石垣

図版37 (1) S D42 (2) S K62

図版38 (1) S K64 (2) S P15

図版38 (1) 西半部分調査区 S B14付近北壁土層 (2) 重機による表土掘削作業

図版40 (1) 作業員による遺構調査作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景

※表紙写真 第75次発掘調査区 S H 8・9 空中写真 (郡衙中枢施設の外郭部に存在する土間式掘立柱建物と思われる。西より)

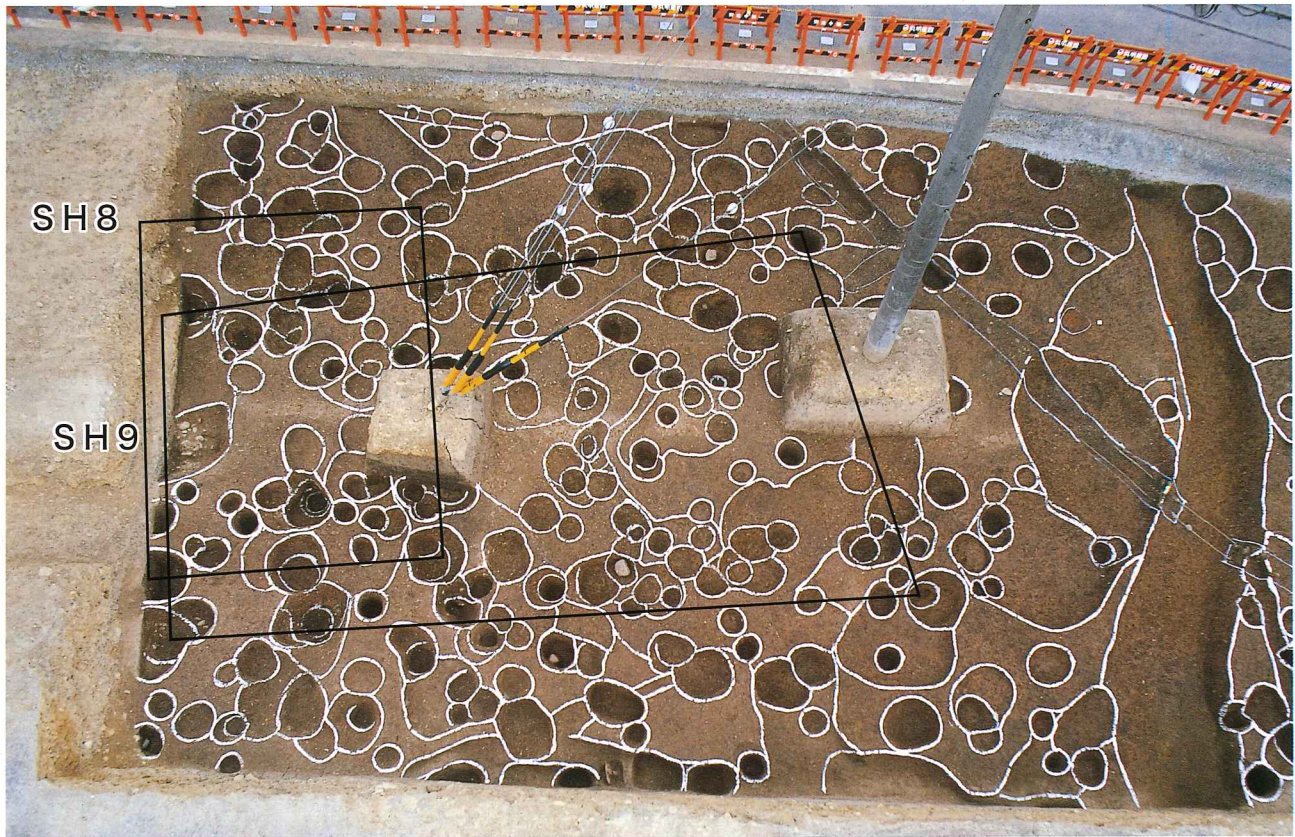
写真図版



(1) 第70次－1 発掘調査区空中写真全景
(手前に弥生時代後期の竪穴住居が見られる。南東より)



(2) 第75次－1 発掘調査区空中写真全景
(手前に古墳時代後期の竪穴住居や奈良時代の掘立柱建物が多数重複している。北東より)



(1) SH8・9

(奈良時代の土間式掘立柱建物で、郡衙関連の建物と思われるが、中枢部の建物ではない。北より)

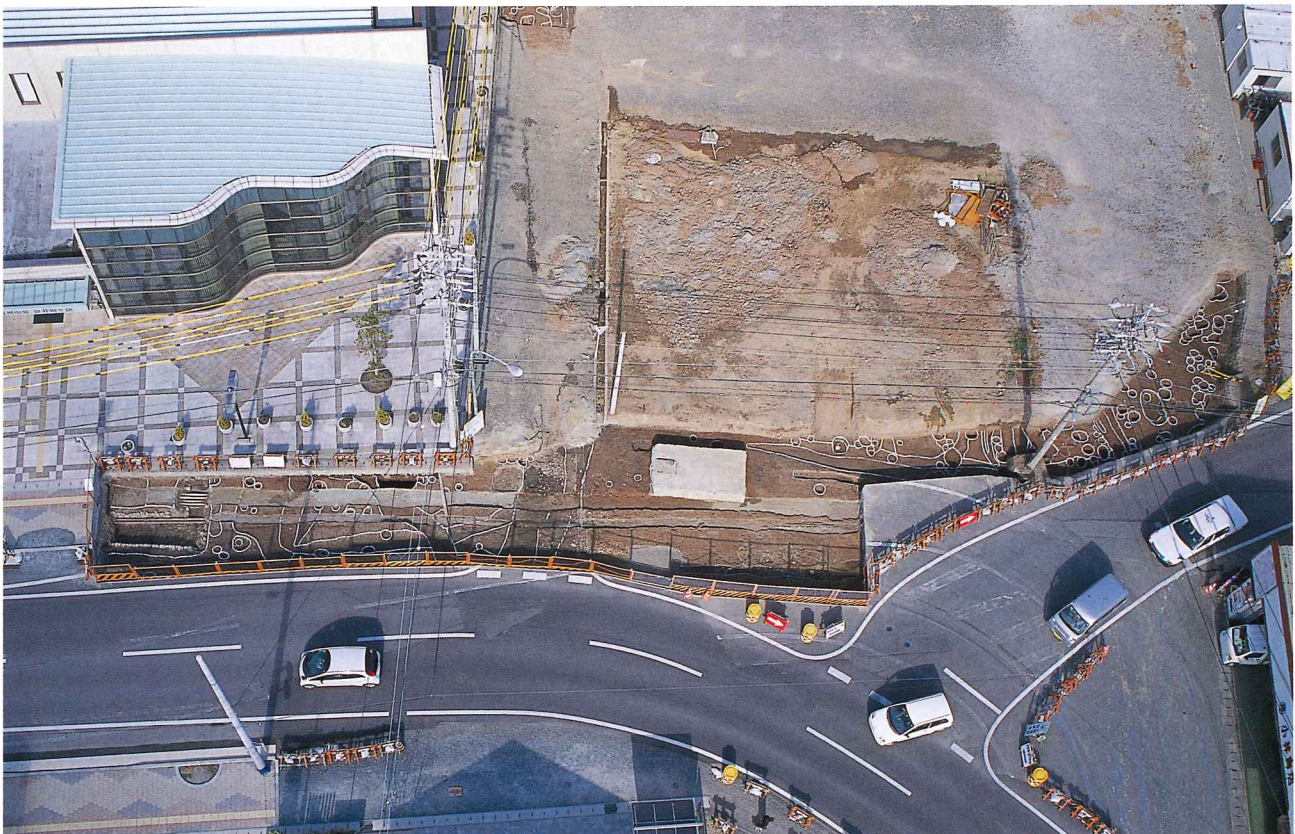


(2) 第75次－2発掘調査区空中写真全景

(弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居が多数重複している。南より)



(1) 第77次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期の竪穴住居と、奈良時代の正倉院の東辺を区画する溝が見つかった。西より)



(2) 第77次発掘調査区空中写真全景
(東側になると弥生時代後期の竪穴住居と柱穴が増えてくる。
中央部分は道路の削平が深く遺構の残りはよくない。南より)



(1) 第70次-1発掘調査区空中写真遠景
(JRの線路より手前の住宅地が掛之上遺跡で、奥が大門遺跡が立地する段丘となる。
さらに奥の水田は旧高尾池の跡である。北東より)



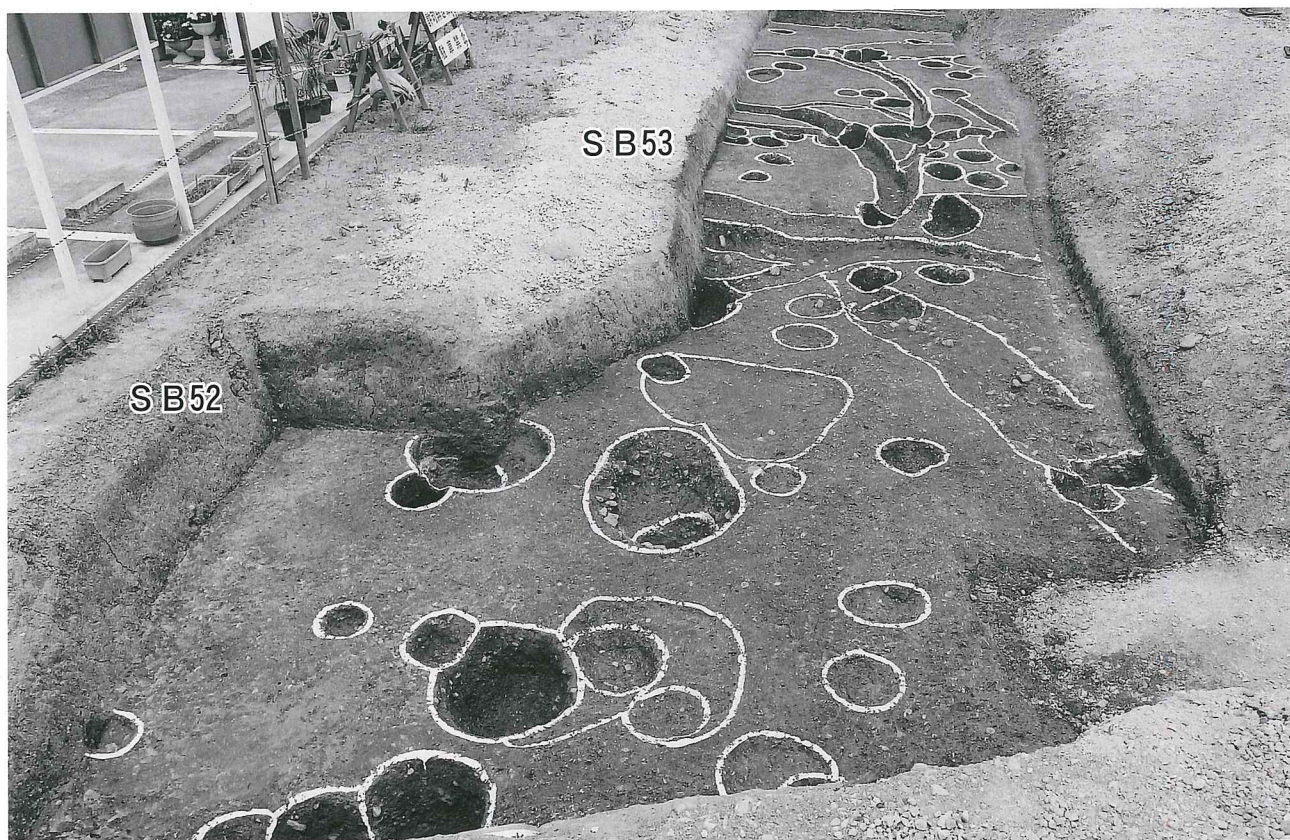
(2) 第70次-1発掘調査区空中写真全景
(奥の方に弥生時代後期の竪穴住居が、手前には江戸時代の排水用の溝が見られる。北より)



(1) 第70次－1発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期の竪穴住居は、重複が激しい。東より)

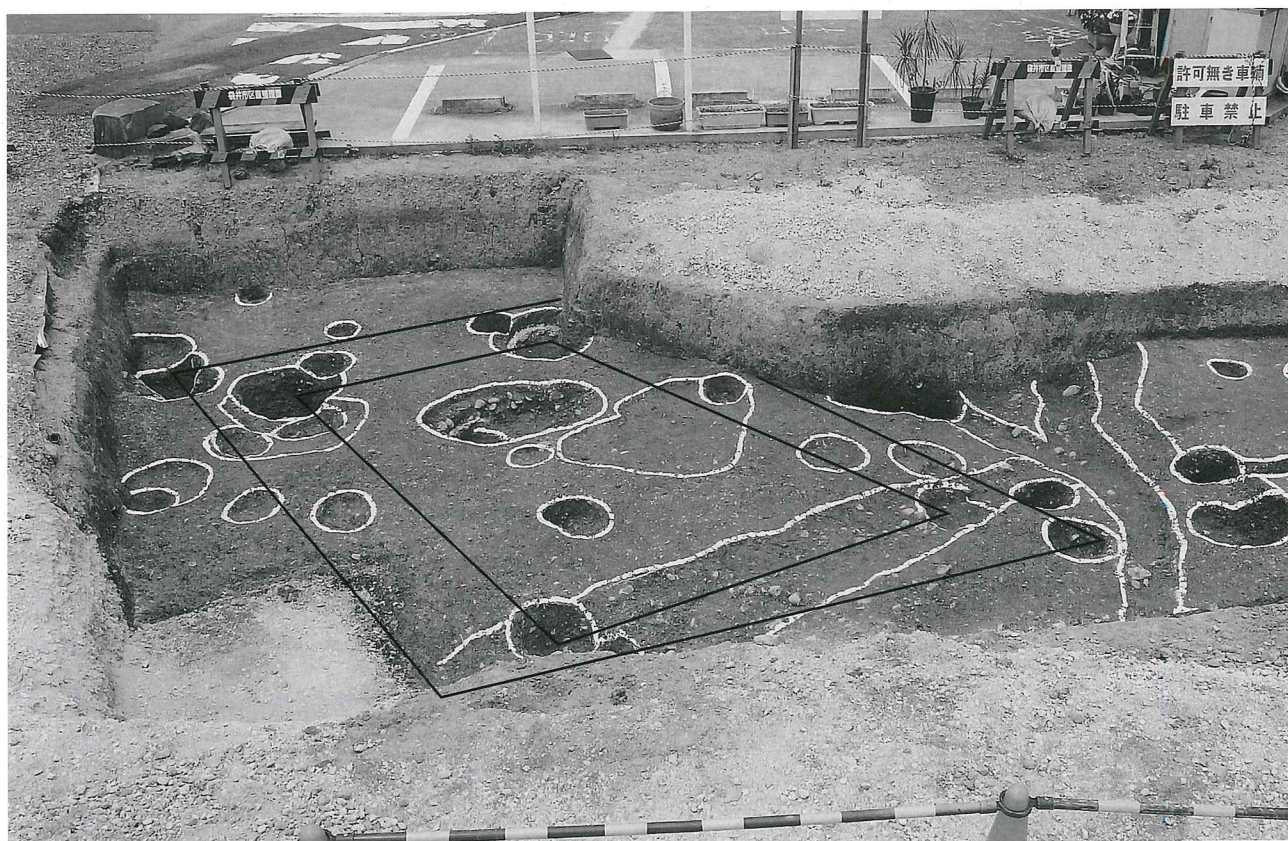


(2) 第70次－1発掘調査区全景 (手前の竪穴住居はかなり深い。南より)



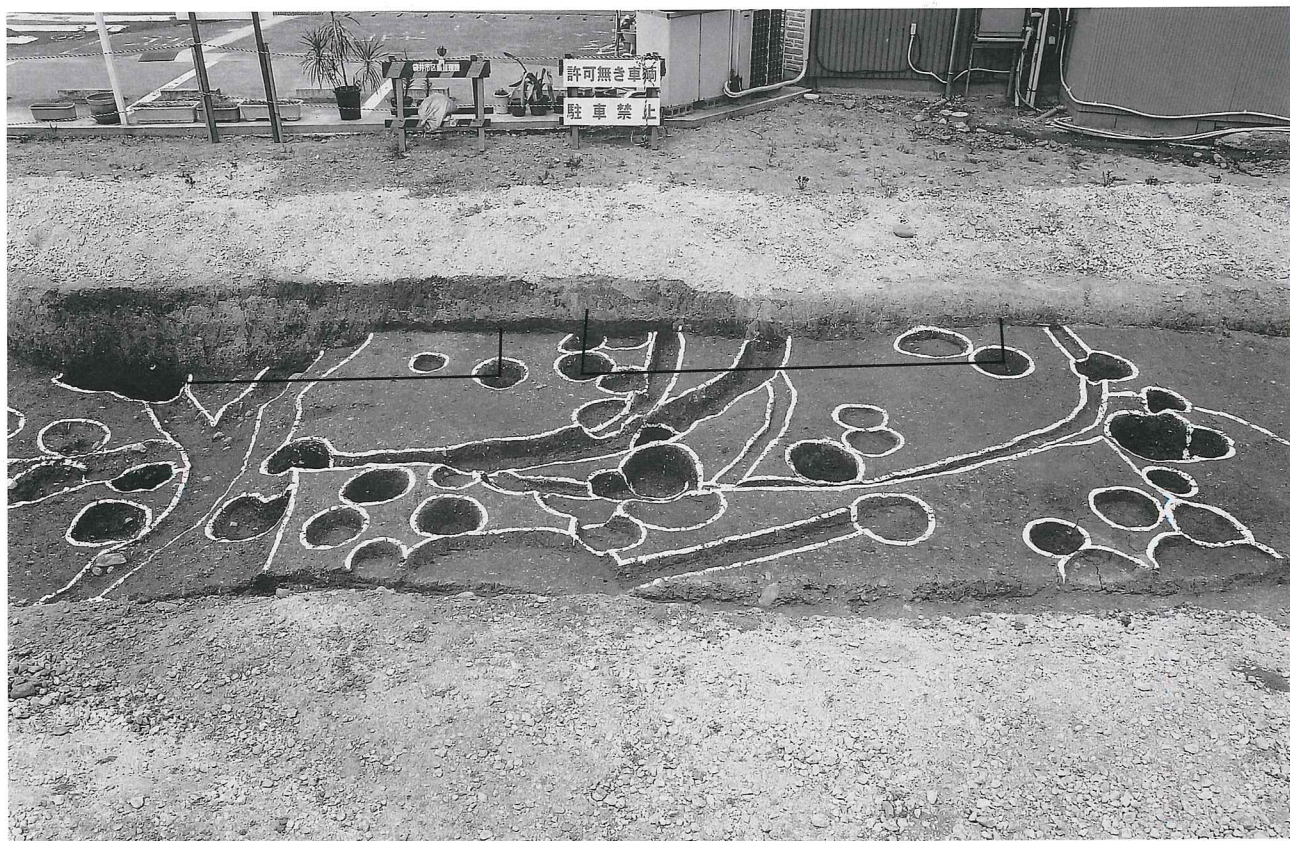
(1) S B52・53

(弥生時代後期の竪穴住居と思われるが、ごく一部の検出で全体の形態は分からない。南より。)



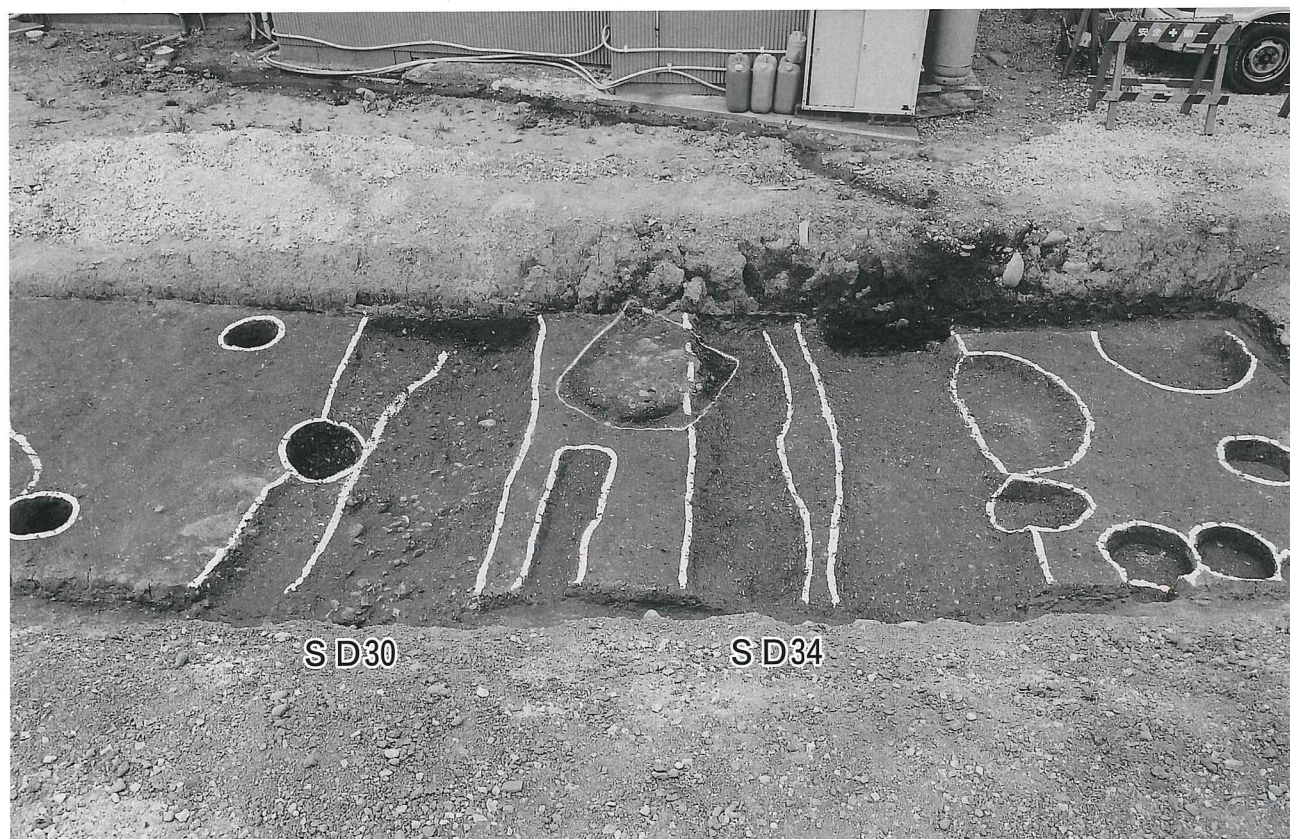
(2) S B52

(弥生時代後期の竪穴住居と見られるが、炉は調査区のなかでは検出されていない。
壁溝より2回の建替えがあったことが分かる。東より)

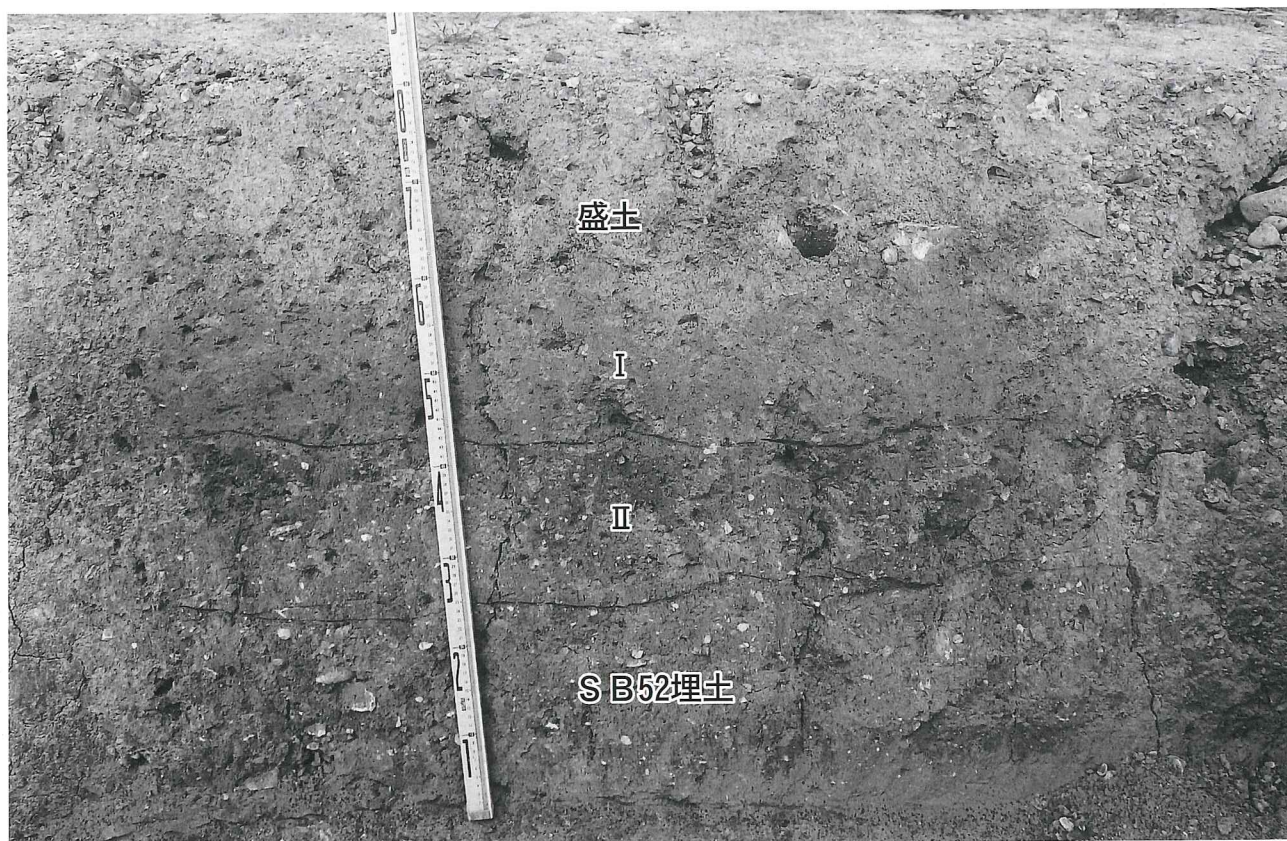


(1) S B53

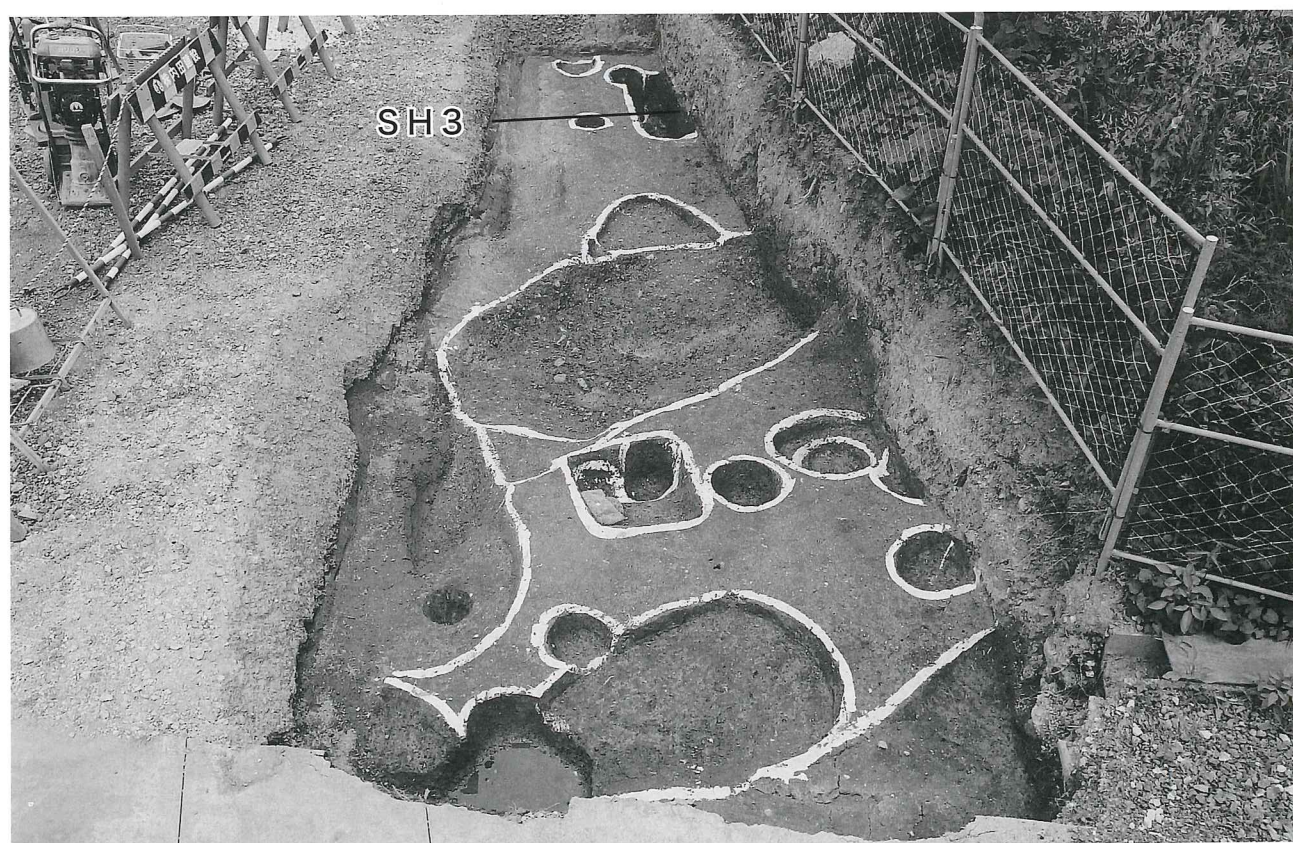
(弥生時代後期の竪穴住居と見られるが、炉は調査区のなかでは検出されていない。
楕円形のプランとなろうか。壁溝より5回の建替えがあったことが分かる。東より)



(2) S D30・34 (いずれも江戸時代末期の排水用の溝であろう。東より。)

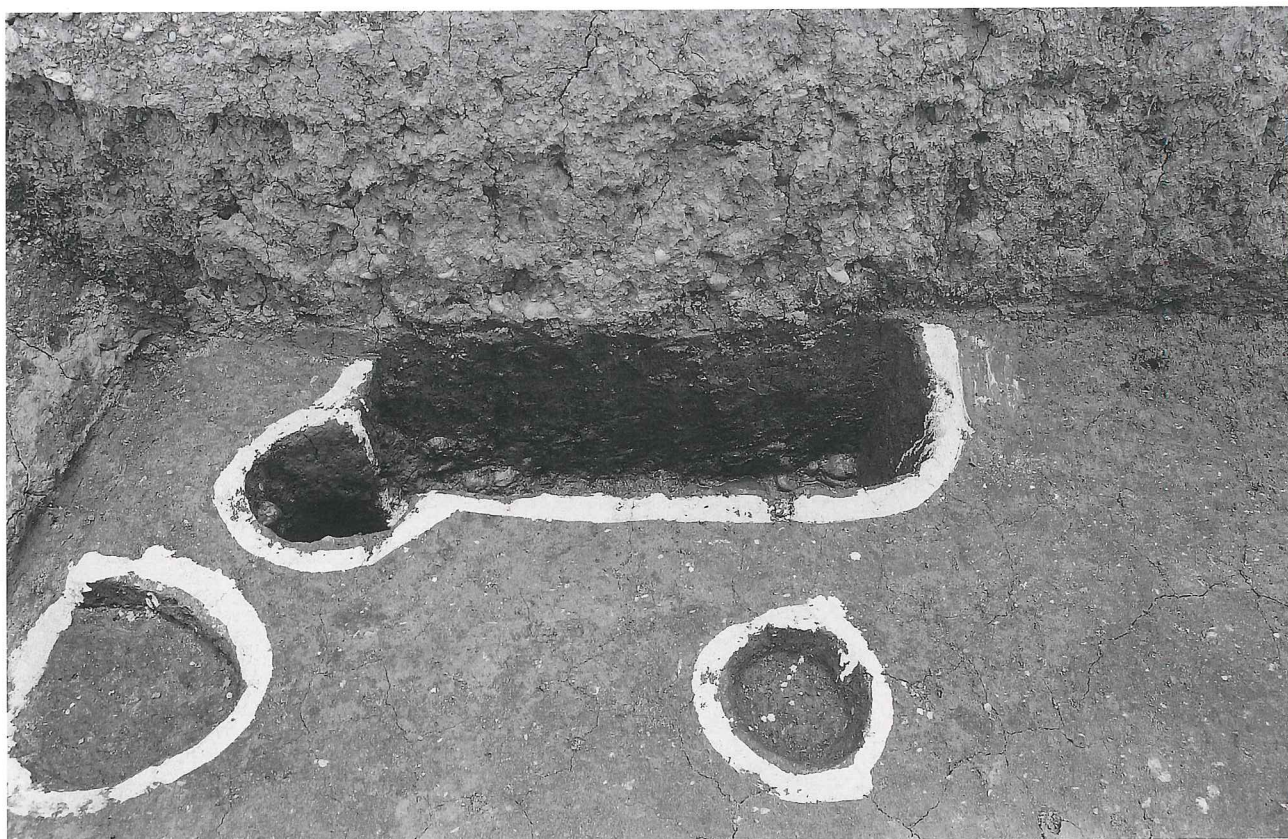


(1) 西壁南端土層 (S B52内の土層で、厚さ20cmの包含層 (II層) が良く残っていた。東より。)

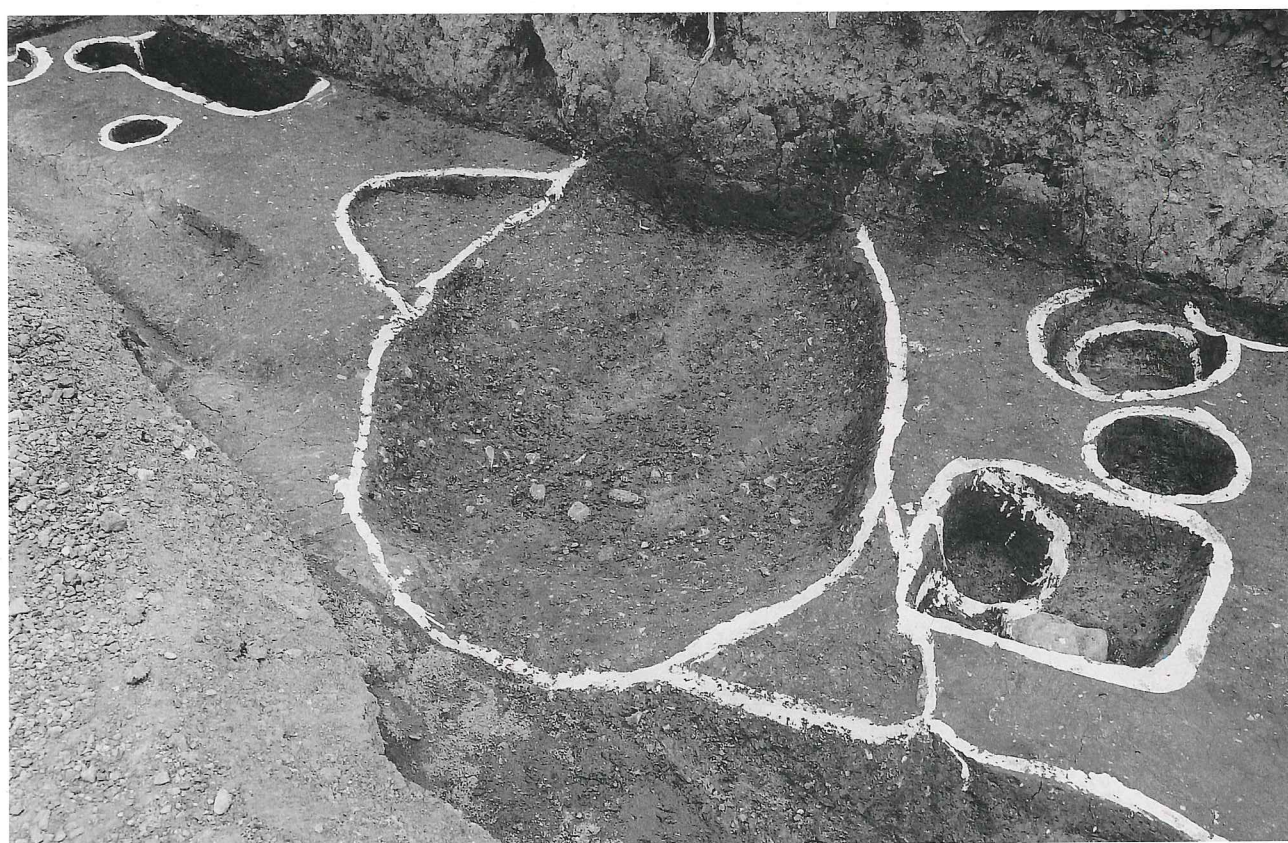


(2) 第70次－2発掘調査区全景

(狭い調査区であるが、弥生時代後期の土坑と奈良時代の大型掘立柱建物の柱穴が検出された。南より)



(1) SH3SP14
(大型掘立柱建物 (SH3) の北側列の桁行東端の柱穴である。
土層からは柱痕跡は確認できなかった。西より)



(2) SK72 (弥生時代後期の土坑で、土器片がまとまって出土した。南西より)



(1) 重機による表土掘削（第70次－1発掘調査区部分である。）



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第75次－1発掘調査区空中写真全景
(手前には戦国時代と江戸時代末期の区画溝、奥には弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居や多数の柱穴が検出された。南西より)



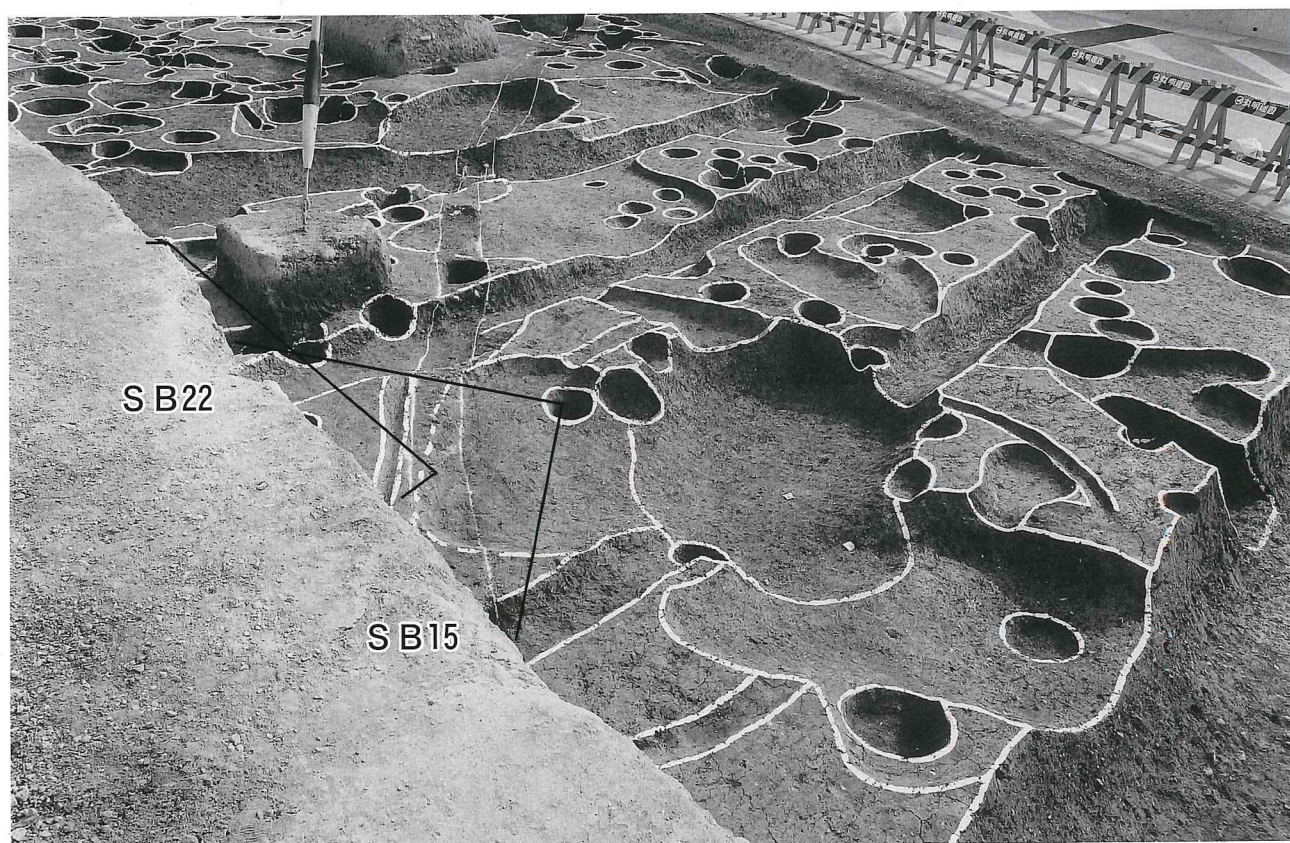
(2) 第75次－1発掘調査区空中写真全景
(柱穴の状況から見ると居住域のなかでも中心域と見られる。北より)



(1) 第75次－1 発掘調査区空中写真全景
(西端の溝は戦国時代の屋敷地の外郭ラインを区画する溝である。上が北で、真上より)



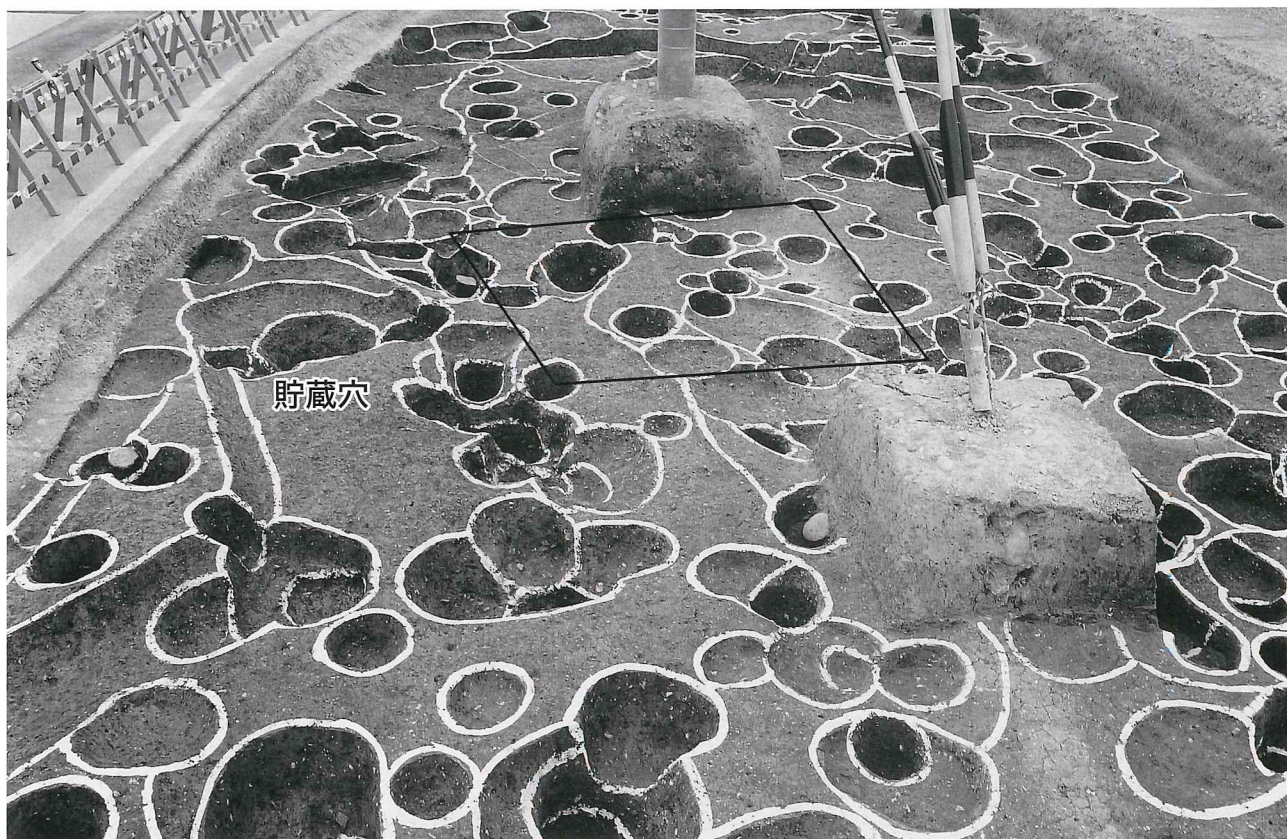
(2) 第75次－1 発掘調査区全景 (弥生時代後期と古墳時代後期、奈良時代の柱穴が多数見られる。東より)



(1) S B15・22 (弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居が重複している。北西より)

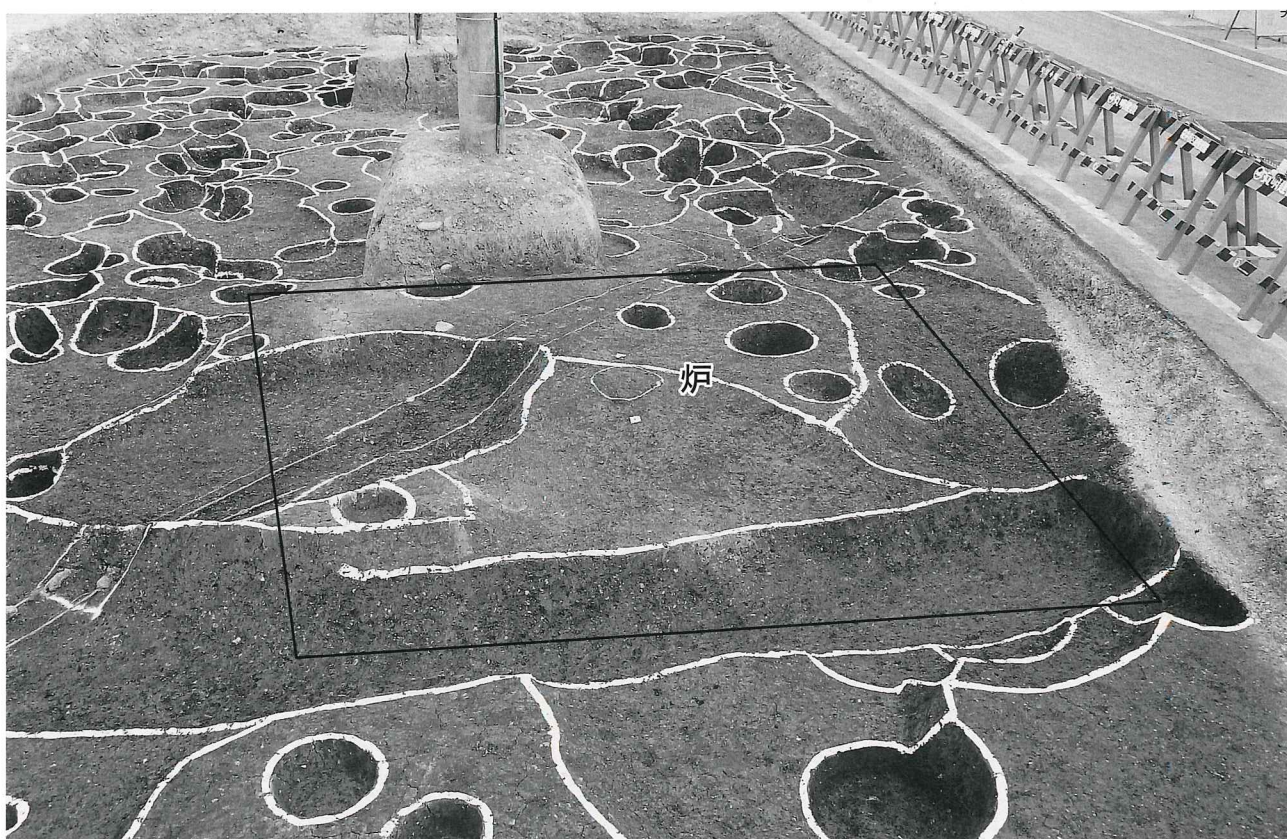


(2) S B22貯蔵穴 (古墳時代後期の竪穴住居の入口付近に見られる貯蔵穴であろう。南より)



(1) S B16

(部分的に残っていたため全体の形態は不明であるが南壁が直線的になることから、古墳時代後期の竪穴住居と見られる。東より)



(2) S B17

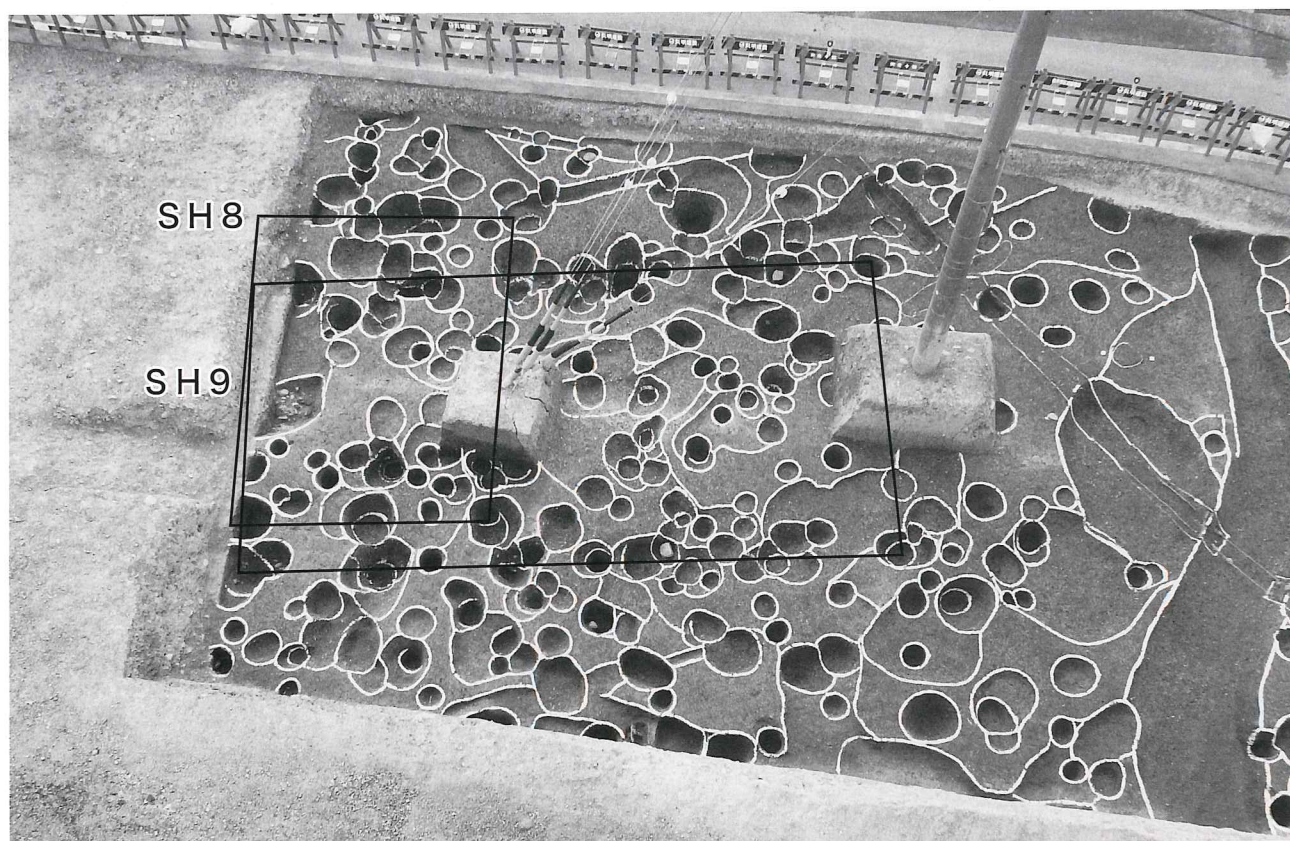
(弥生時代後期の竪穴住居と思われるが、炉と柱穴しか検出されていないため全体の形態は不明である。西より)



(1) S B17炉跡（地床炉である。柱穴の配置から見ると北側に寄っている位置に設けられている。南より。）



(2) SH8・9空中写真
 (多数の柱穴と重複するため分かりづらいが、やや大きめの柱穴で構成される建物である。奈良時代の郡衙関連の建物と思われる。東より)



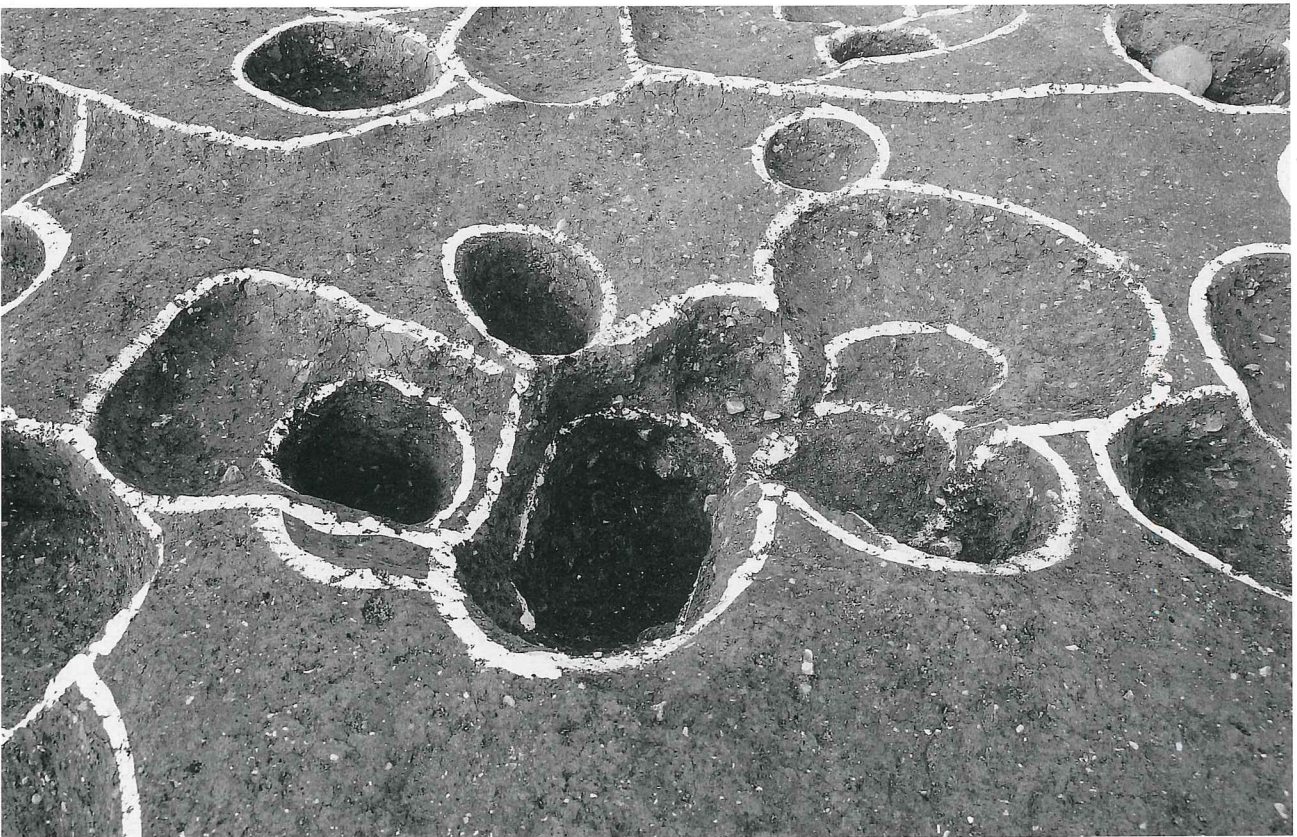
(1) SH8・9 空中写真（位置から見ると郡衙中枢の建物ではない。北より）



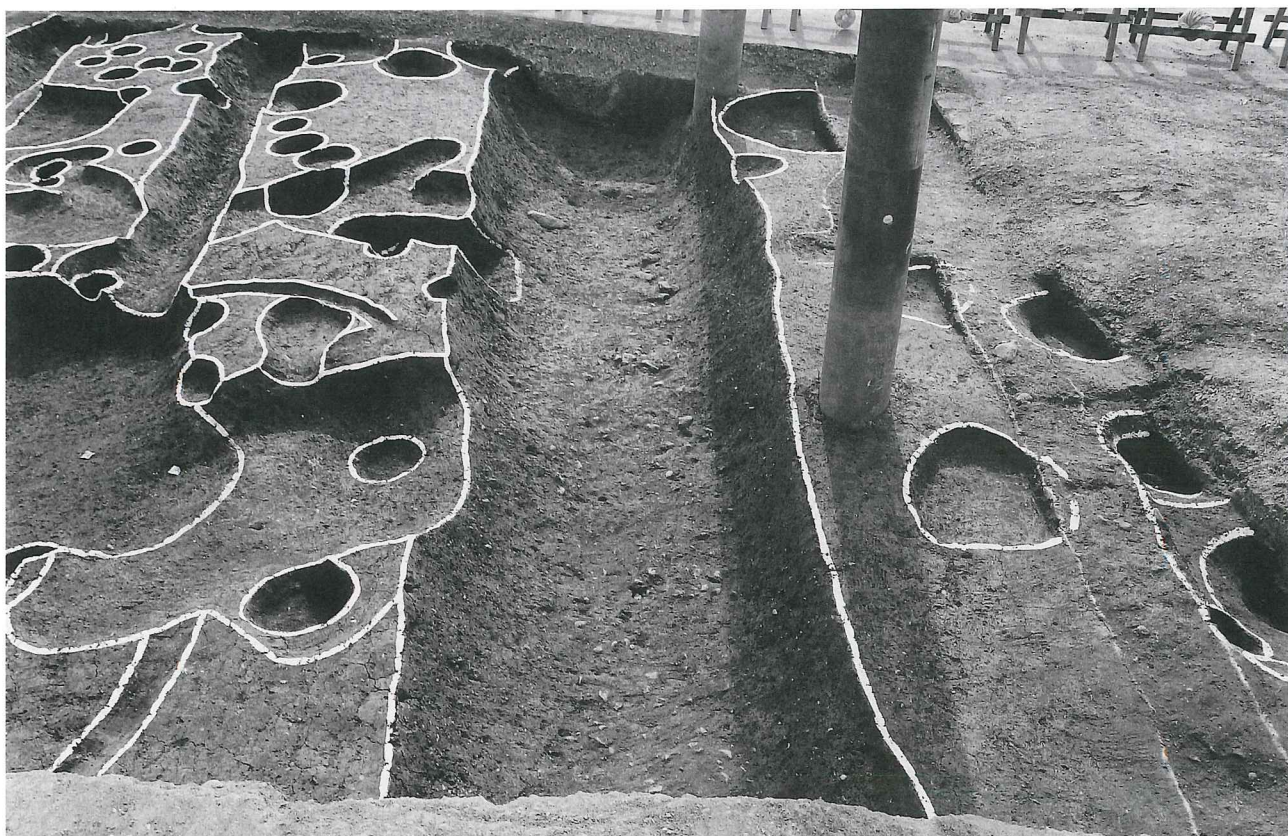
(2) SH8・9（東より）



(1) SH9SP129 (土層からは柱穴の痕跡は分らない。南より)

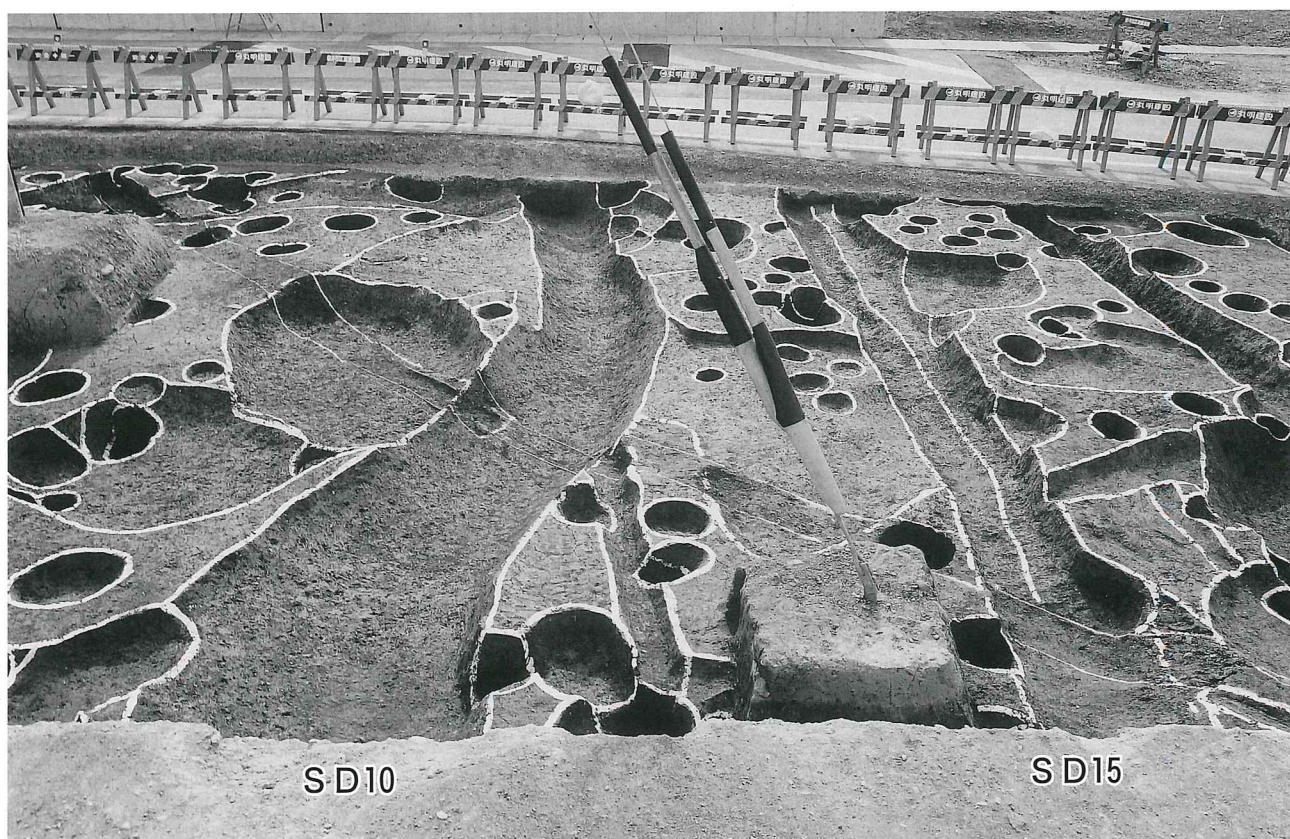


(2) SH9SP76 (柱穴が切り合うため2回程度の建替があった可能性がある。南より)

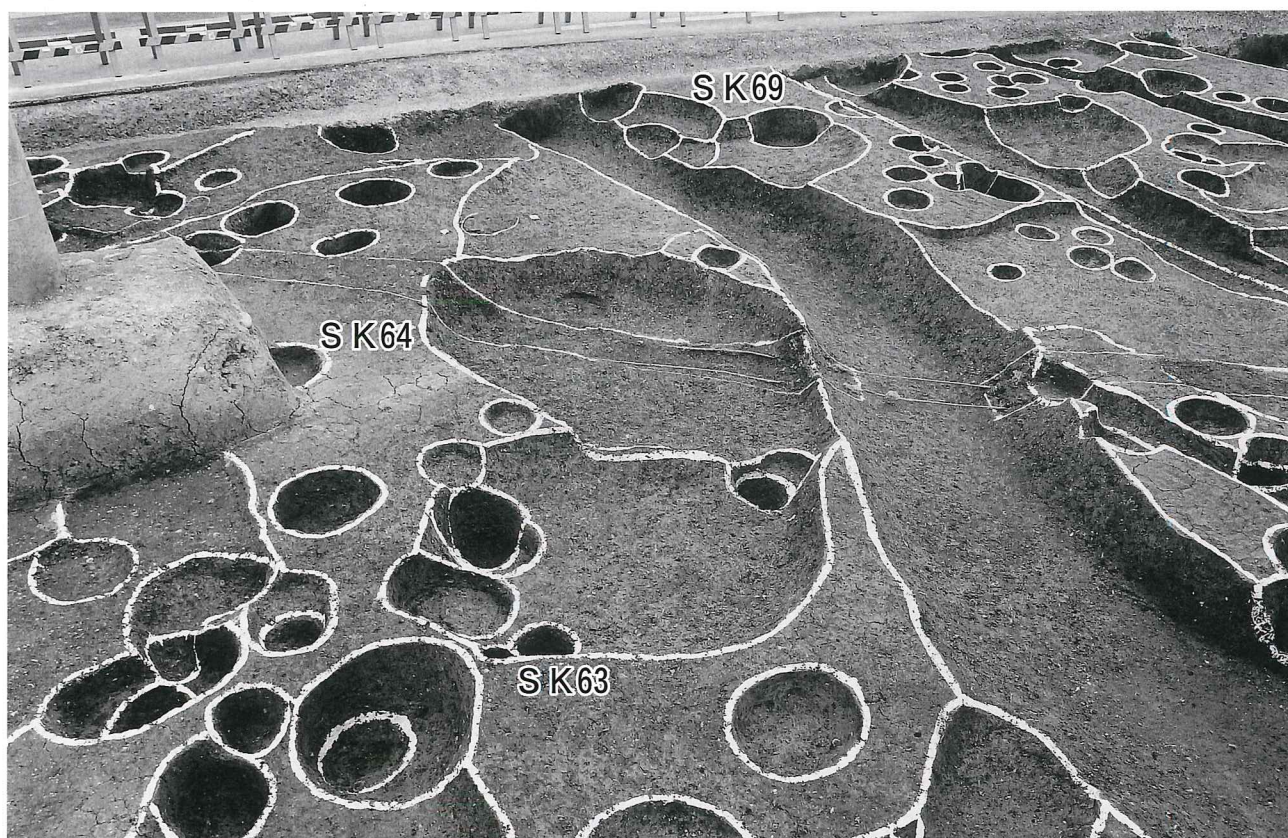


(1) SD7

(戦国時代の屋敷地の外郭ラインを区画する溝で、箱掘状を呈する。左側が屋敷地内となる。北より)

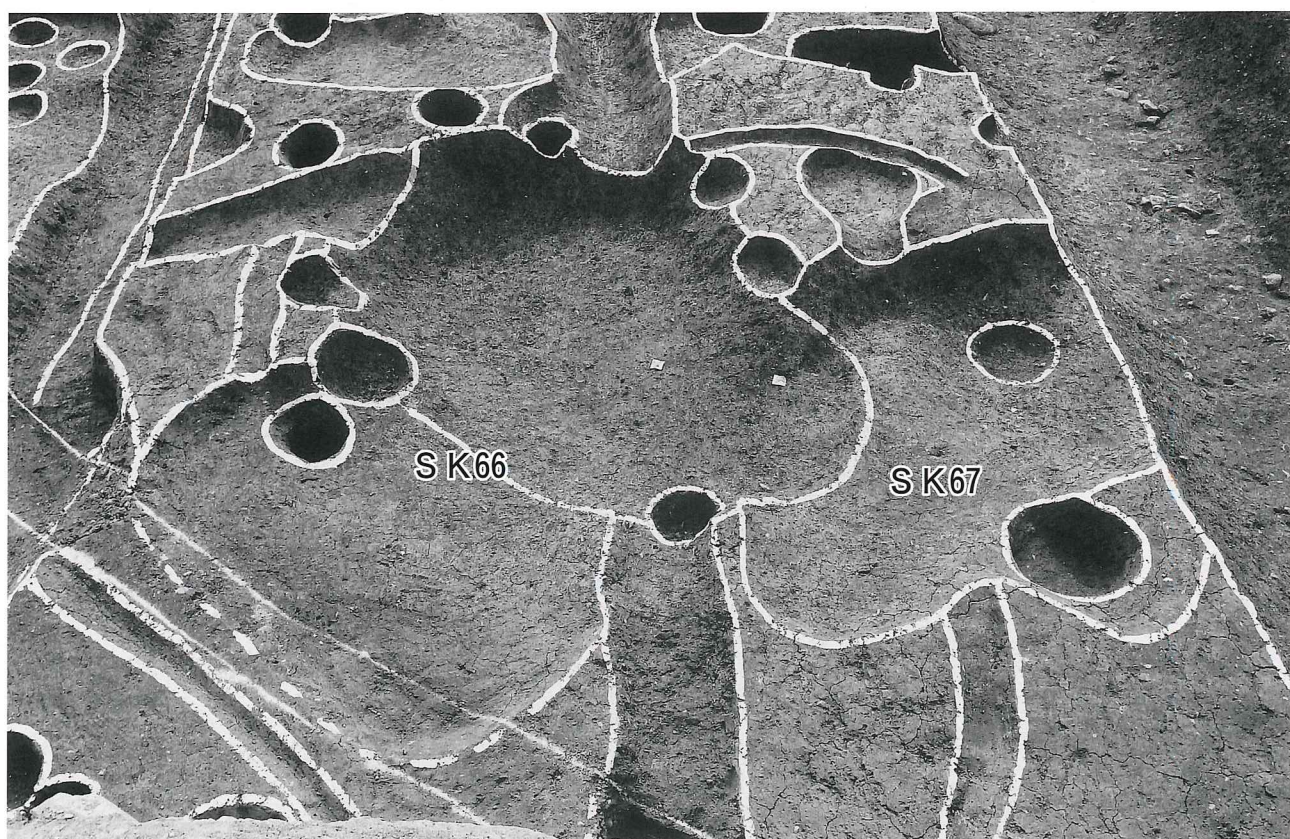


(2) SD10・15 (いずれも江戸時代末期の畑地の排水用の溝と思われる。北より)



(1) S K63・64

(いずれも弥生時代後期の土坑であるが、土器片の出土量は少ない。S B15・16付近に位置する。北東より)

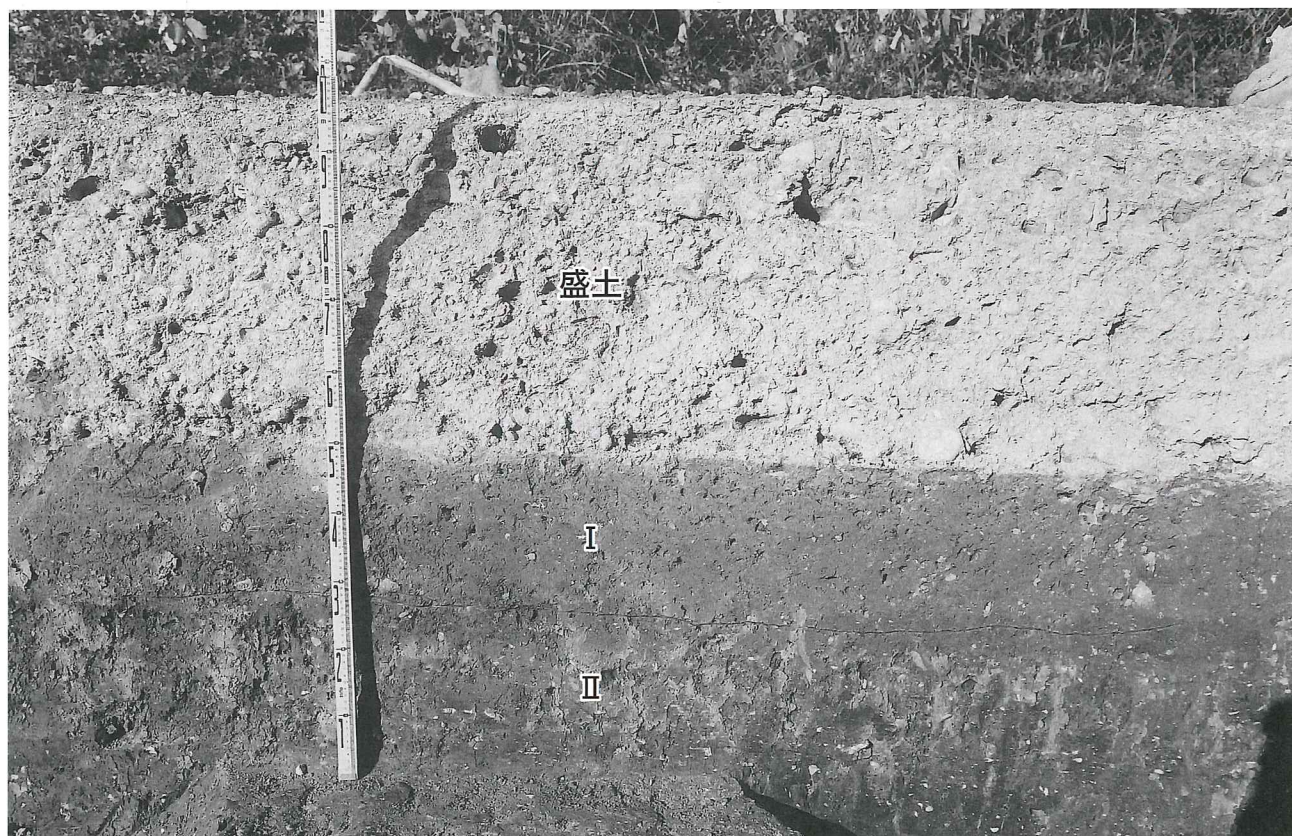


(2) S K66・67

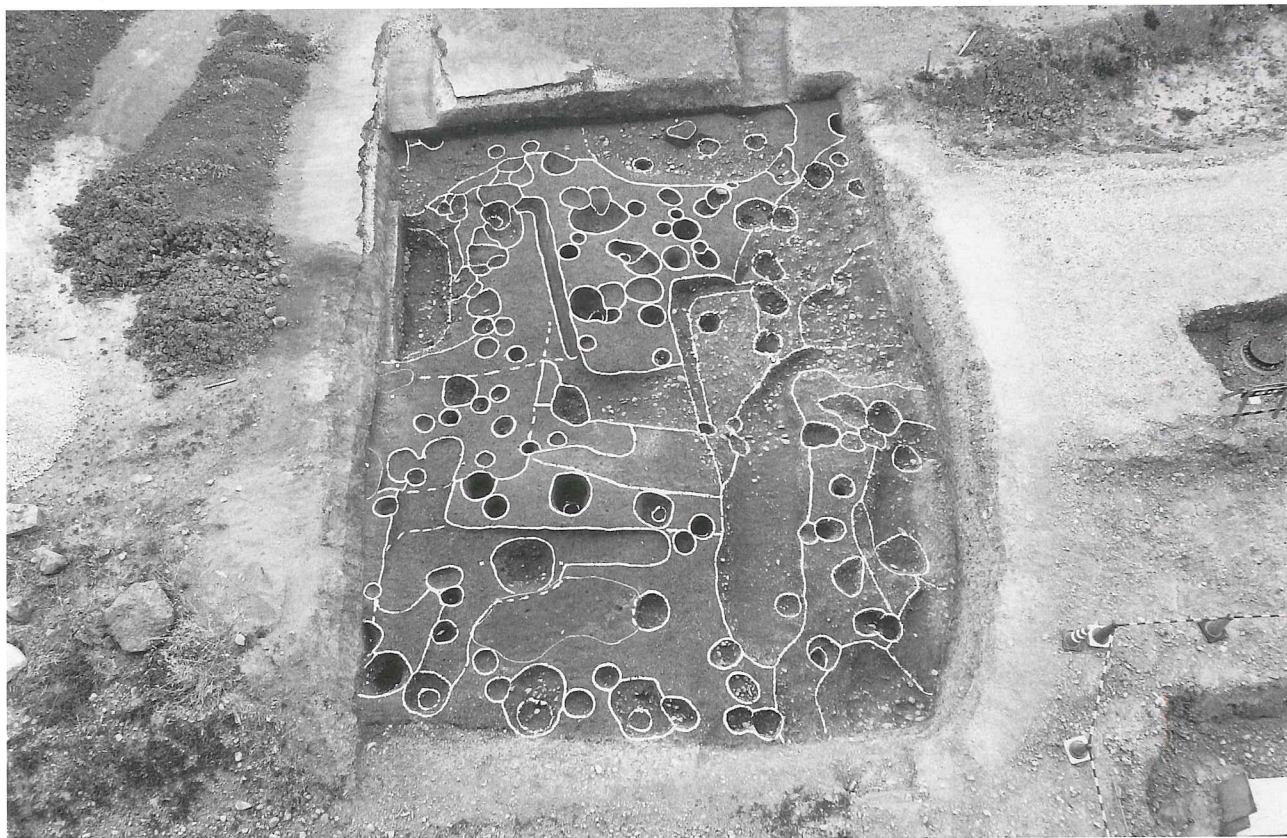
(いずれも弥生時代後期の土坑であるが、土器片の出土量は少ないが、S K66からは小型壺が出土した。S B15・16付近に位置する。北より)



(1) S K66出土小型壺（底よりやや浮いた状態で出土した。南より）



(2) 調査区北壁中央土層（厚い盛土下に厚さ30cmの包含層が確認された。南より）



(1) 第75次－2発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居が多数検出された。
奈良時代の掘立柱建物も重複している。北より。)



(2) 第75次－2発掘調査区空中写真全景
(上は自然の谷になるが、緩斜面のため竪穴住居が見られる。西より。)



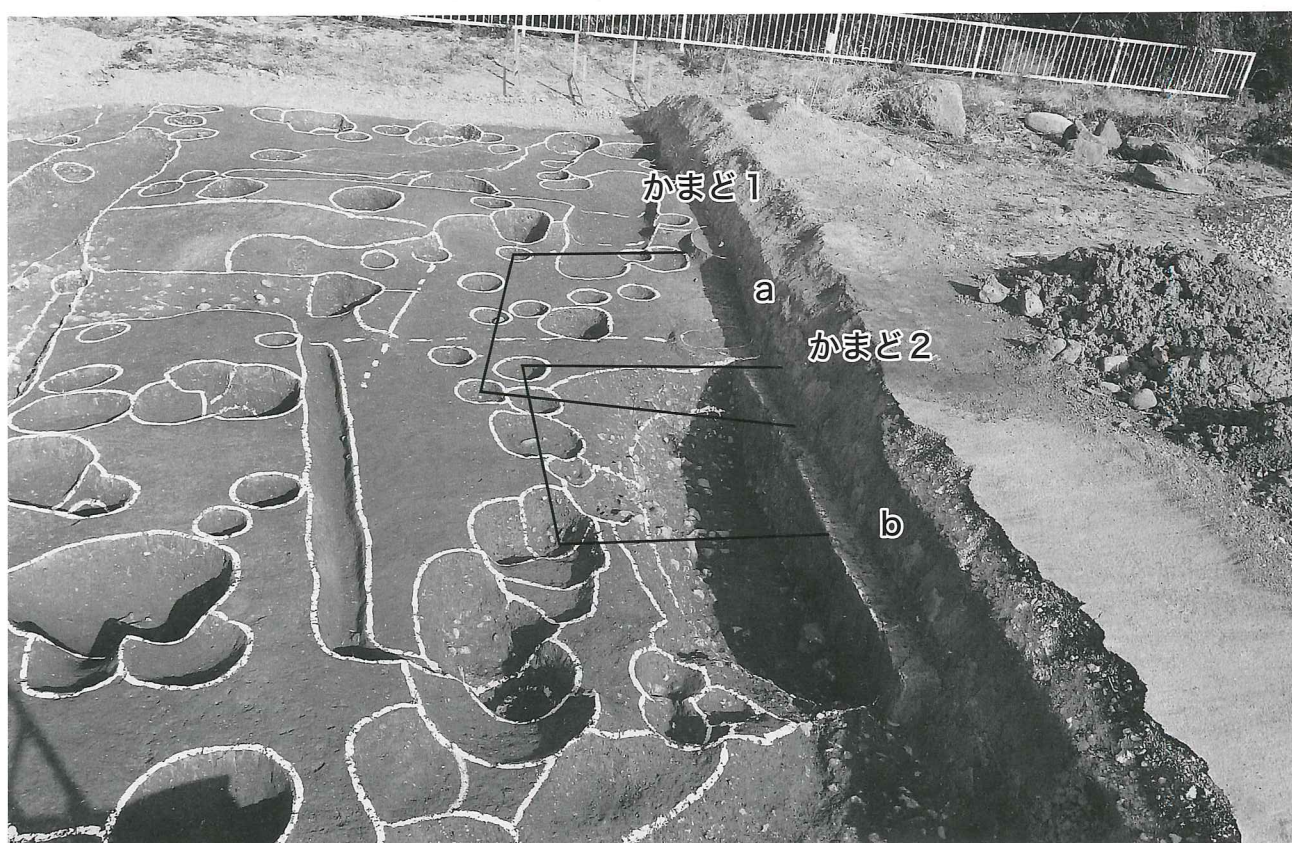
(1) 第75次－2発掘調査区空中写真全景
(楕円形の竪穴住居は弥生時代後期、方形の竪穴住居は古墳時代後期に該当する。上が東で、真上より)



(2) 第75次－2発掘調査区全景 (木が茂る場所は段丘涯で、涯下は原野谷川の河川敷となっている。南より)



(1) 第75次－2発掘調査区全景
(右側は段丘涯で、涯下は原野谷川の河川敷、中央奥に1調査区が見えている。南より)



(2) S B16 a・b (古墳時代後期の竪穴住居が2棟重複している。南より)



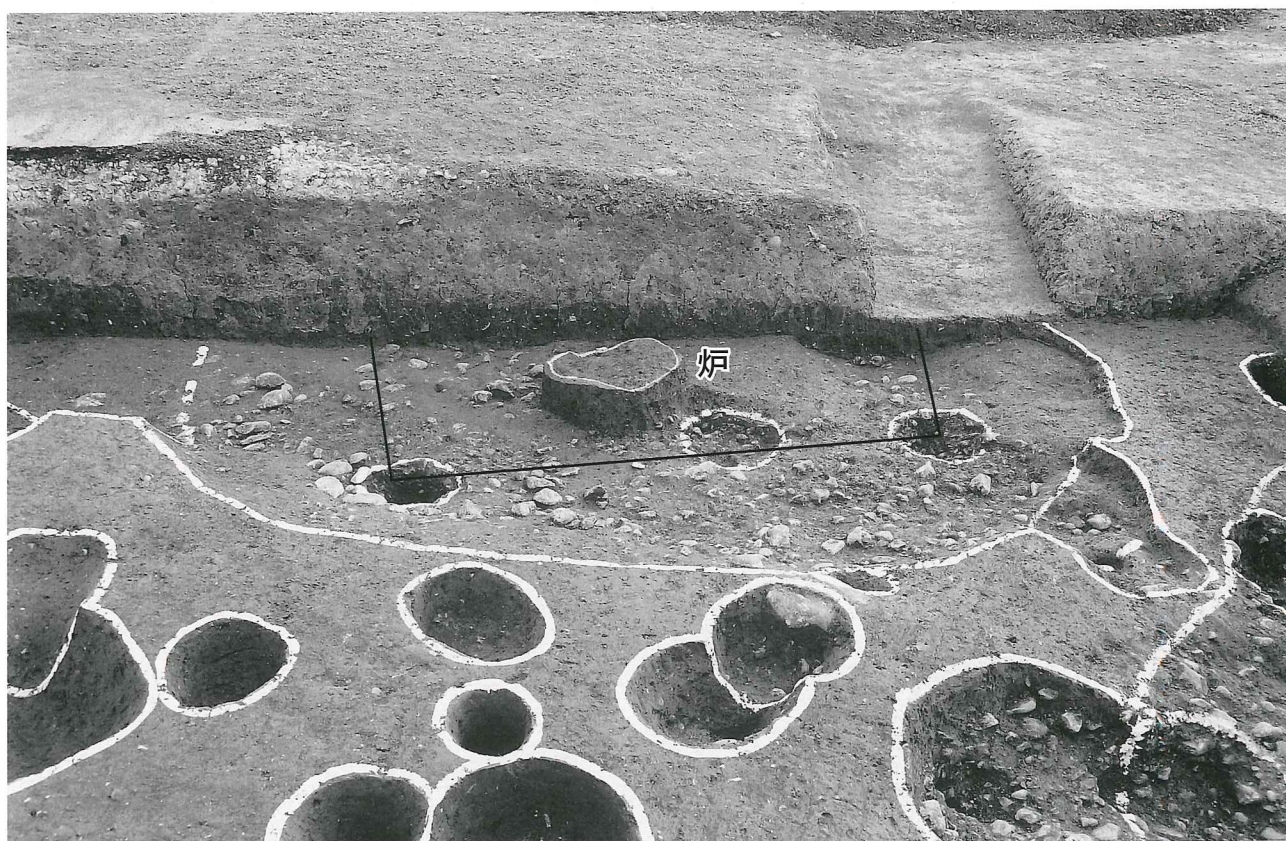
(1) S B16 a・b (いずれも北壁にかまどをもっている。西より)



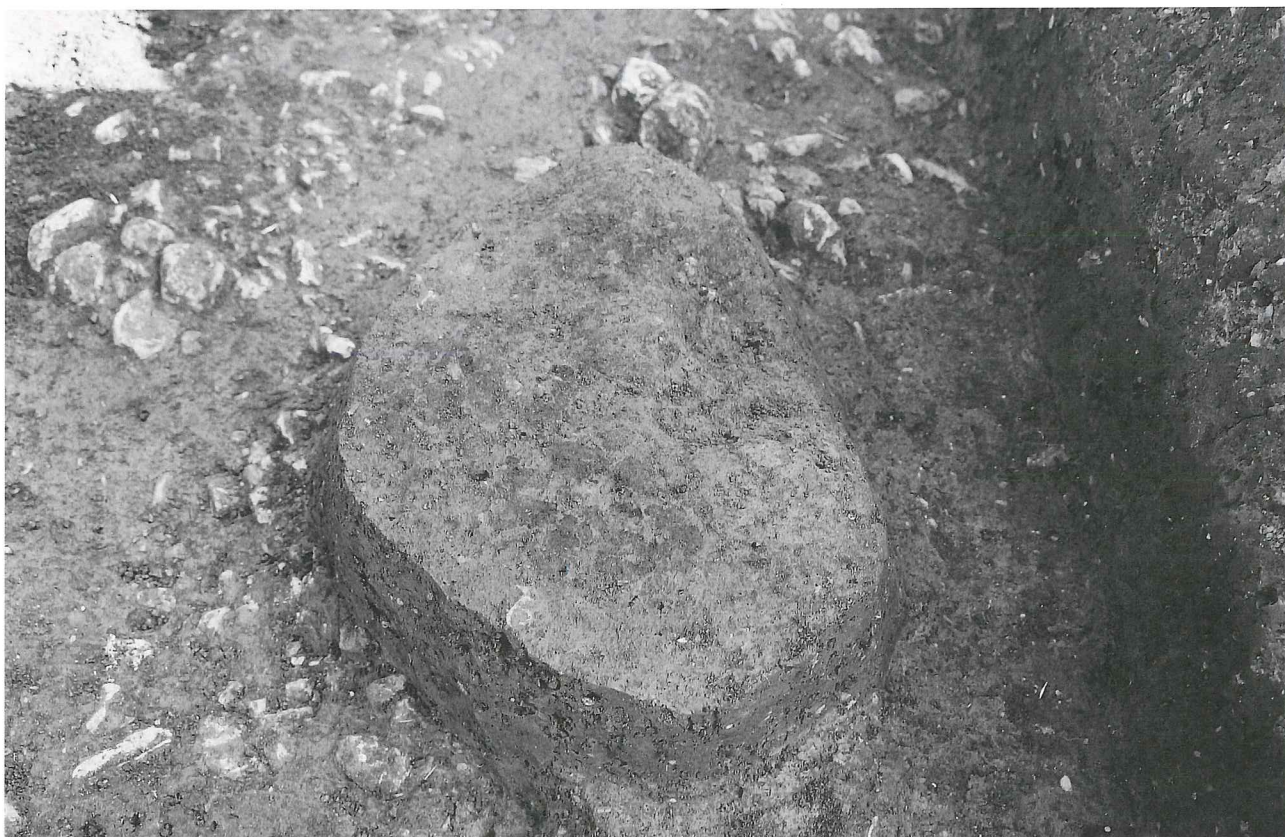
(2) S B16かまど跡1 (半分の検出で、右側には土器片が散乱していた。南より)



(1) S B16かまど跡2
(新たな住居が造られたため、かまどが削平され焚口の焼土のみが検出された。西より)



(2) S B17 (弥生時代後期の隅丸方形の竪穴住居である。炉が浮いており、深い掘方となっている。北より)

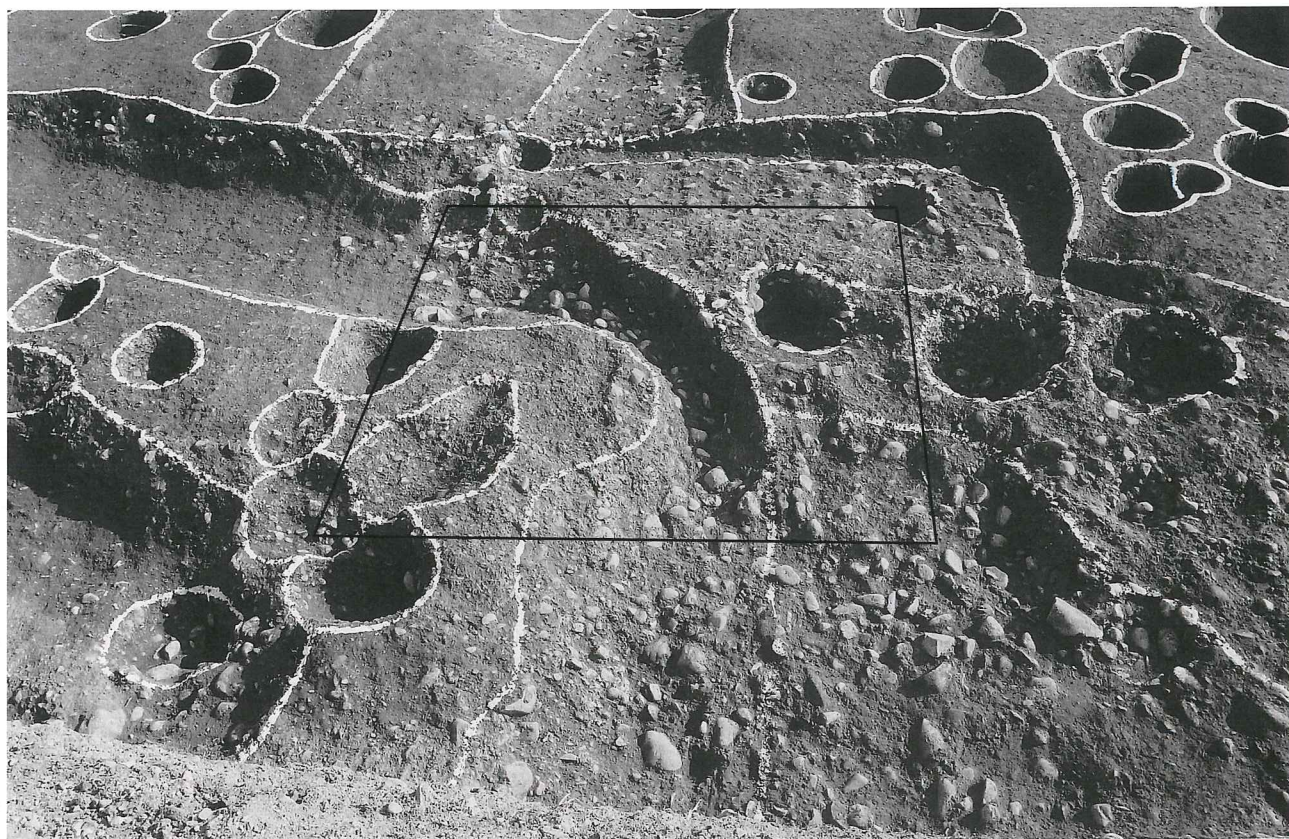


(1) S B17炉跡 (かなり浮いた状態で検出された。北壁に寄った位置に設けられている。西より)



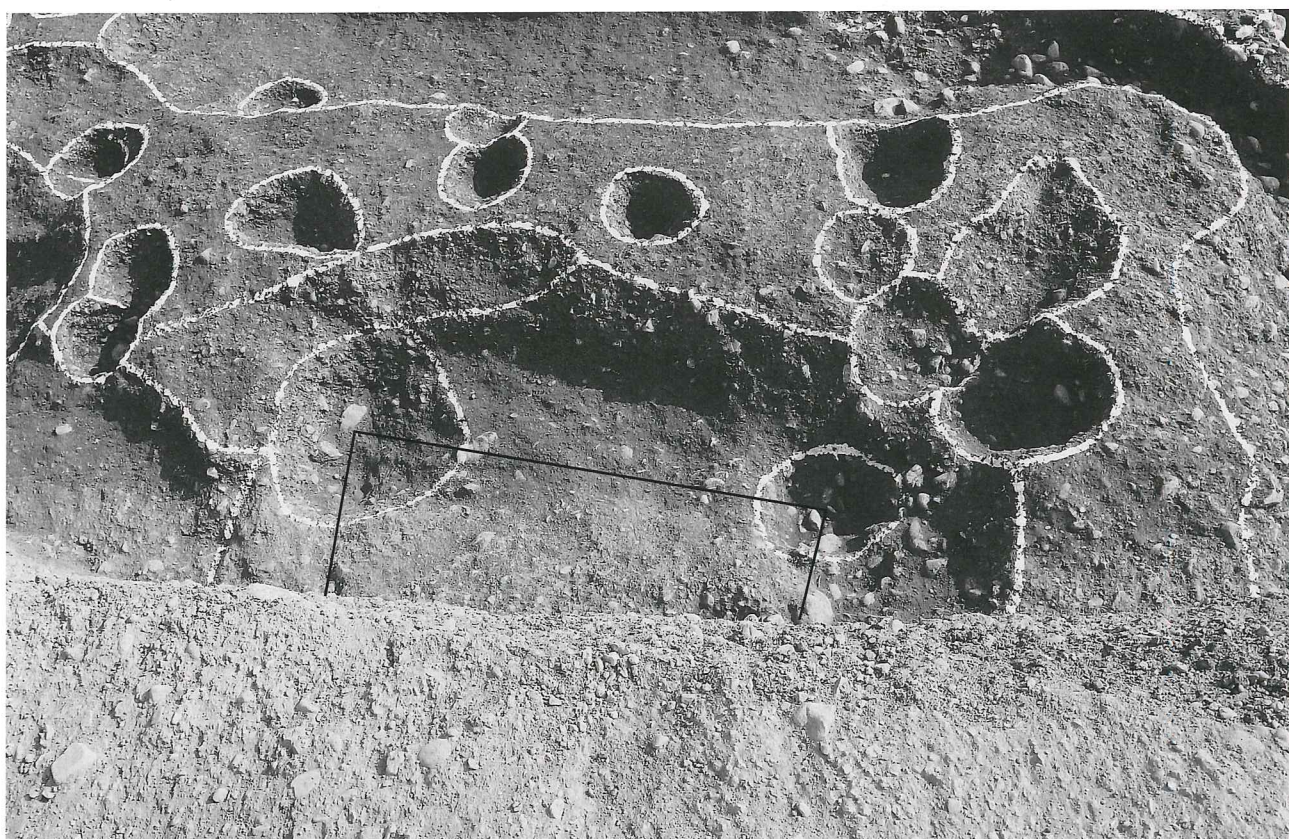
(2) S B18・19

(斜面部で検出された竪穴住居2棟で、いずれも西側の壁は自然流失のため失われ東側の壁の検出に留まっている。南より)



(1) S B18

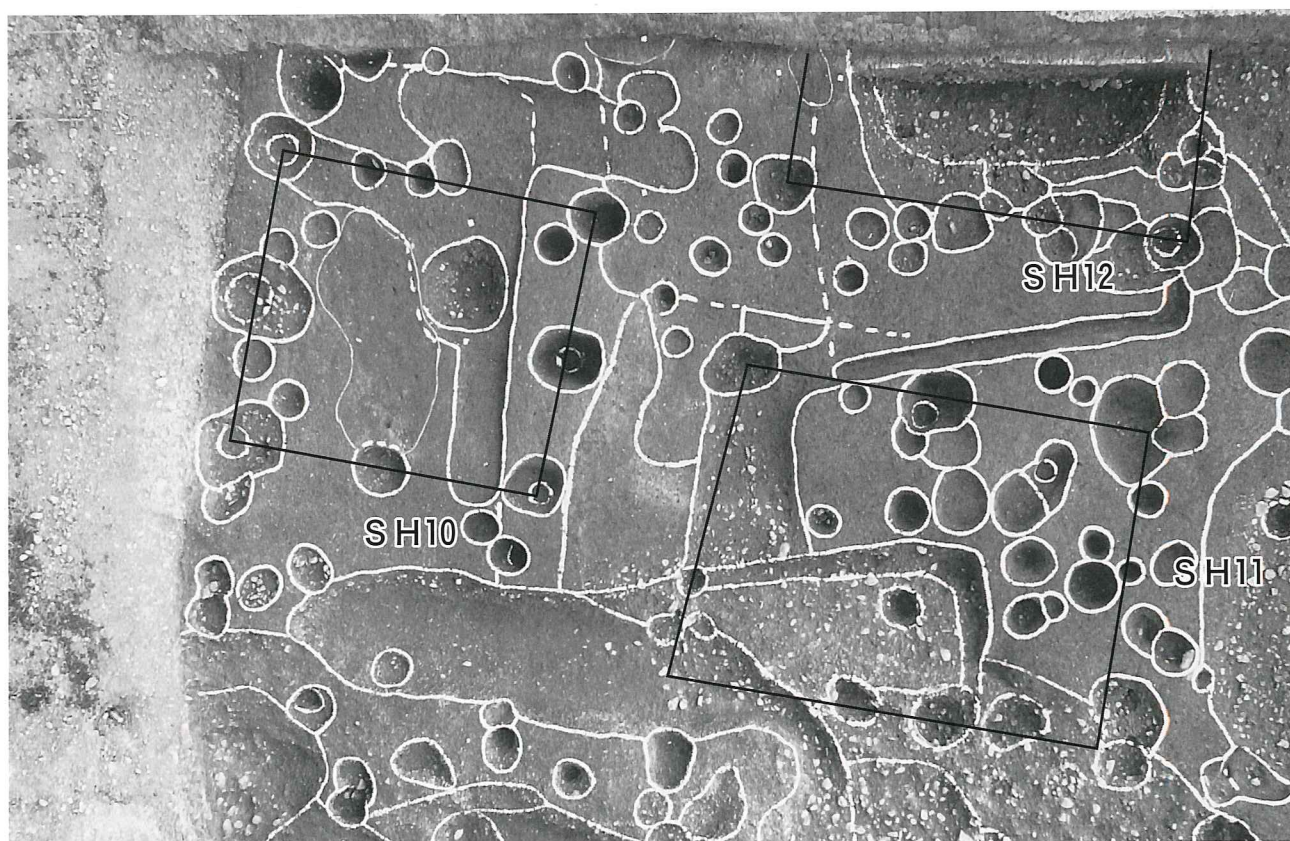
(かまどは失われているが、東壁が直線的であるため古墳時代後期の竪穴住居と見られる。西より)



(2) S B19 (隅丸方形になる弥生時代後期の竪穴住居であろう。西より)

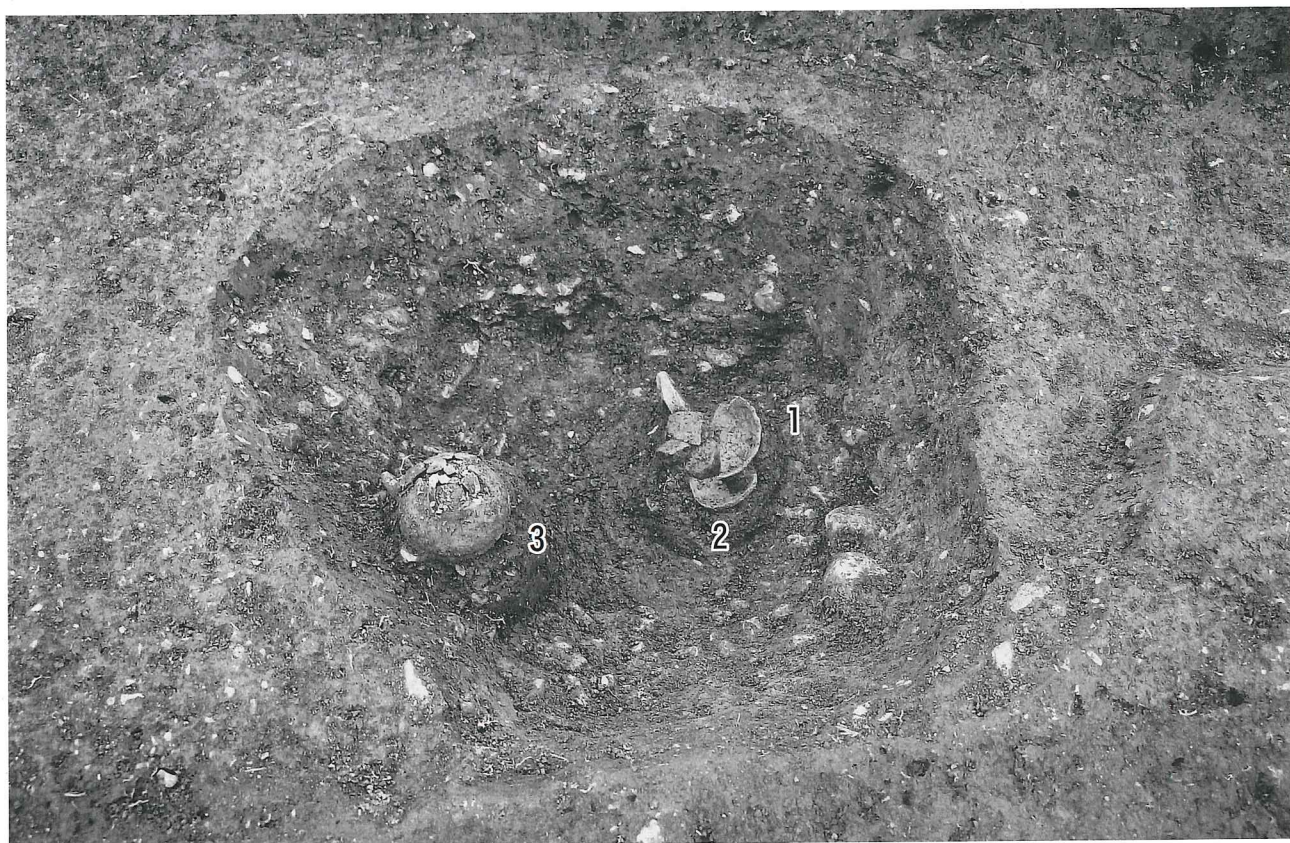


(1) S B20・S H10 (掘立柱建物は2間×2間の規模である。東より)

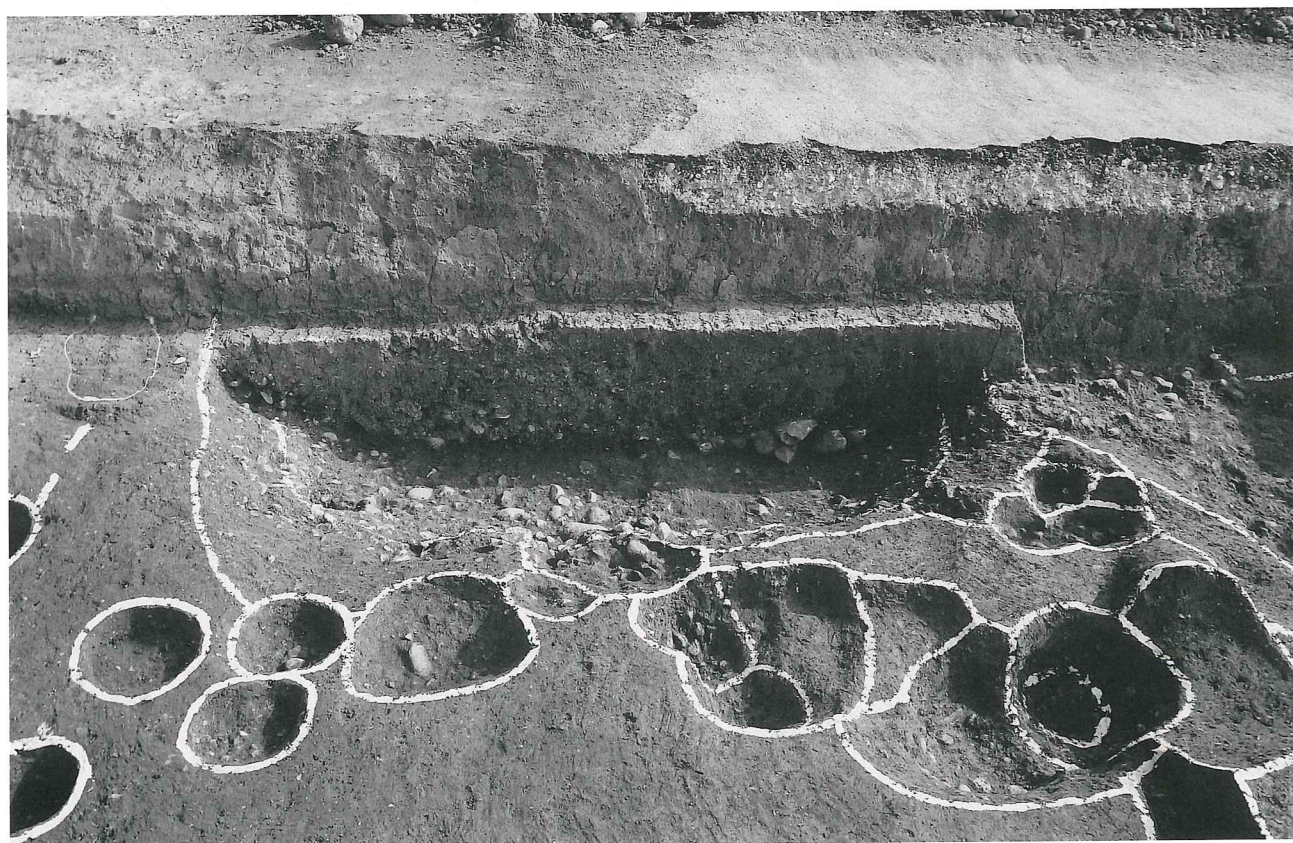


(2) S H10～S H12

(いずれも奈良時代の掘立柱建物と見られる。正倉院の建物と主軸方向は合う。上が東で、真上より)



(1) S B20貯蔵穴（古墳時代後期の竪穴住居入口付近に見られる貯蔵穴である。北より）



(2) S K71（長方形の大型土坑で、S B16よりも新しいため中世の時期か。西より）



(1) 調査区南壁中央土層
(厚さ25cmの包含層が調査区南半に見られた。北より)



(2) 重機による表土掘削作業 (第75次-1発掘調査区の作業状況である。)



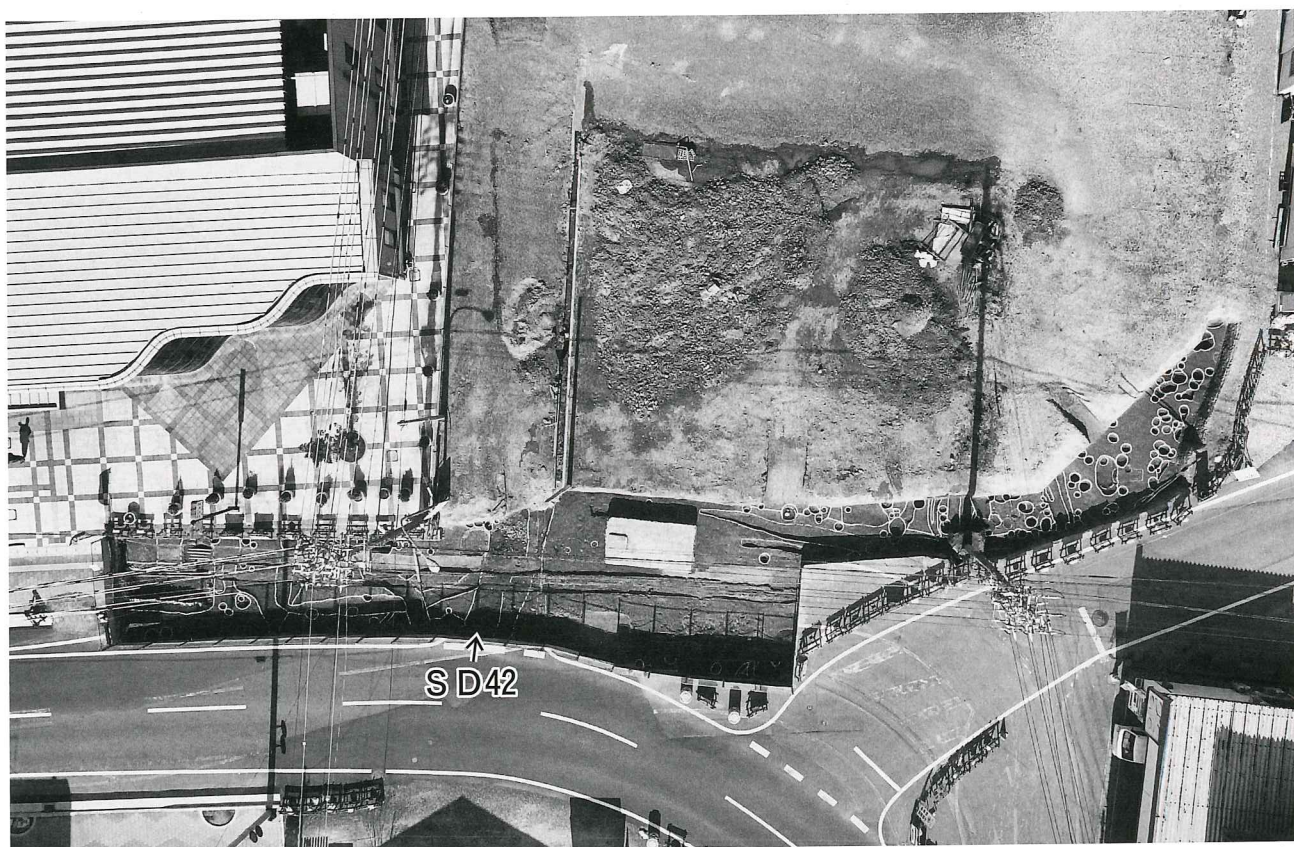
(1) 作業員による遺構調査作業風景（第75次－1発掘調査区西端のSD7付近の調査を進めている。）



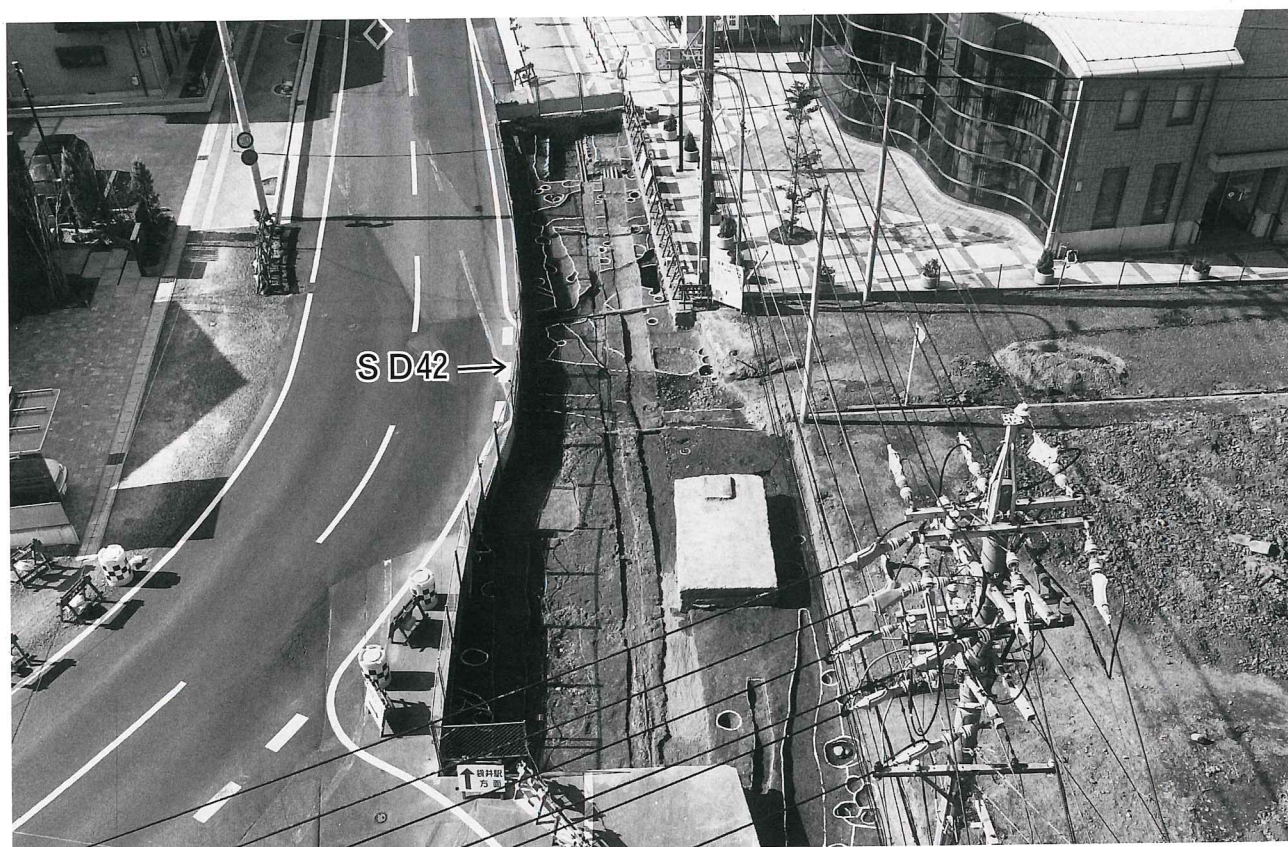
(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第77次発掘調査区空中写真全景
(手前には弥生時代後期の竪穴住居、柱穴や土坑が見られるが、中央部分は道路築造時の削平のため遺構数は少なく見える。東より)



(2) 第77次発掘調査区空中写真全景
(中央の溝 (S D42) は郡衙正倉院の東辺を区画する溝である。上が北で、真上より)



(1) 第77次発掘調査区西半部分空中写真全景
(中央の溝は郡衛正倉院(S D42)の東辺を区画する溝である。東より)



(2) 第77次発掘調査区西半部分空中写真全景
(西端の溝は明治時代の屋敷地の区画溝、東側は道路築造時の削平のため遺構が少なく見える。南より)



(1) 第77次発掘調査区西半部分空中写真全景（上が北で、真上より）



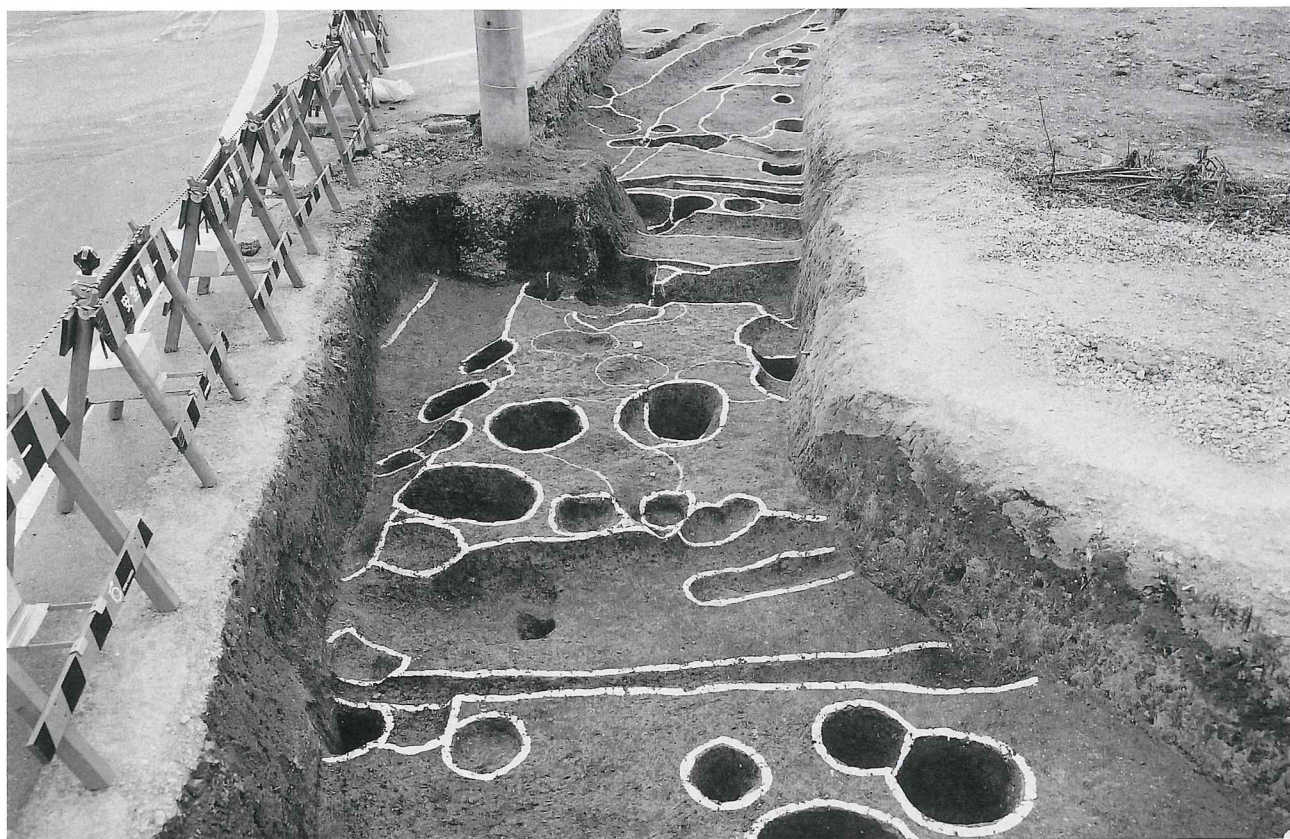
(2) 第77次発掘調査区西半部分全景
(現道下であったせいか水道管や地下ケーブルの埋設により破壊されている場所が存在する。東より)



(1) 第77次発掘調査区東半部分空中写真全景
(遺構面の保存状況は良く、弥生時代後期の竪穴住居、柱穴や土坑が多数見られる。北東より)

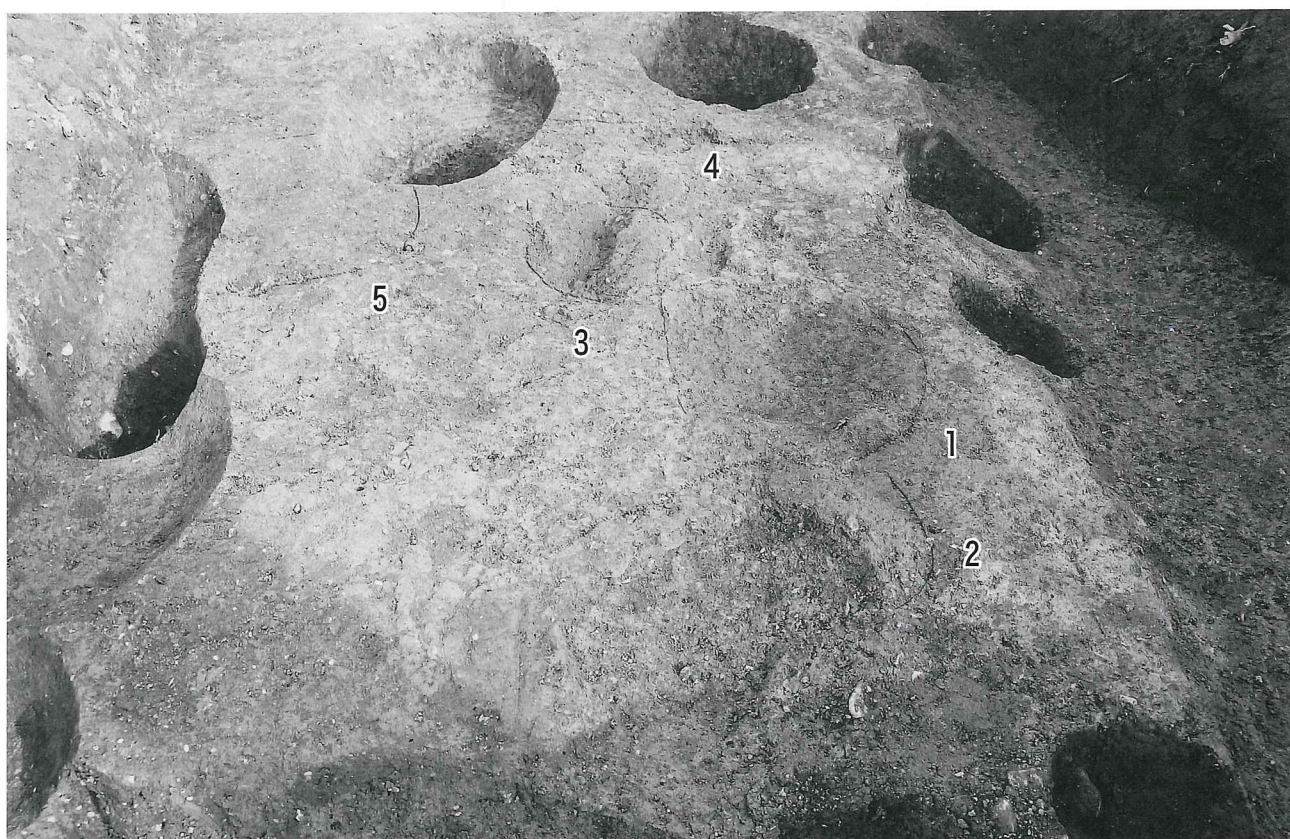


(2) 第77次発掘調査区東半部分空中写真全景 (中央に弥生時代後期の竪穴住居が見られる。北より)

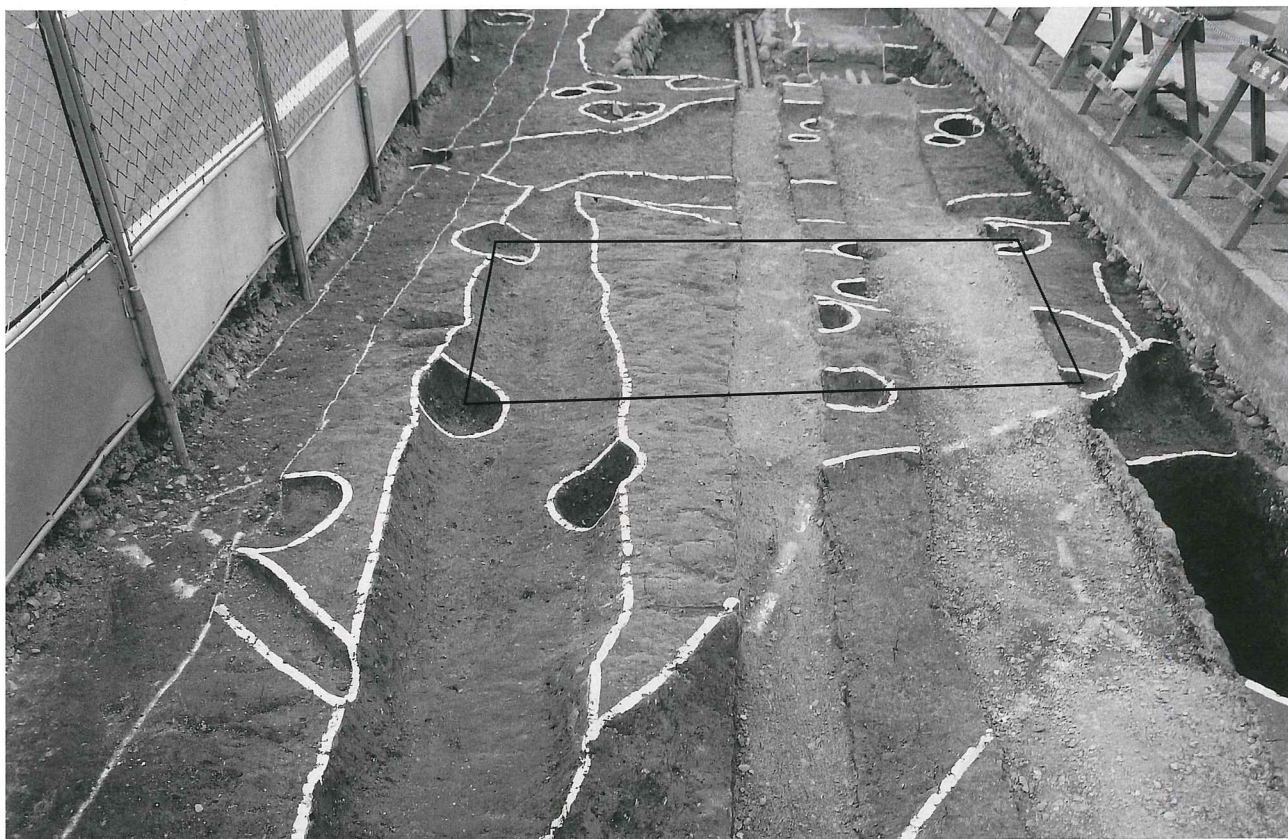


(1) S B14

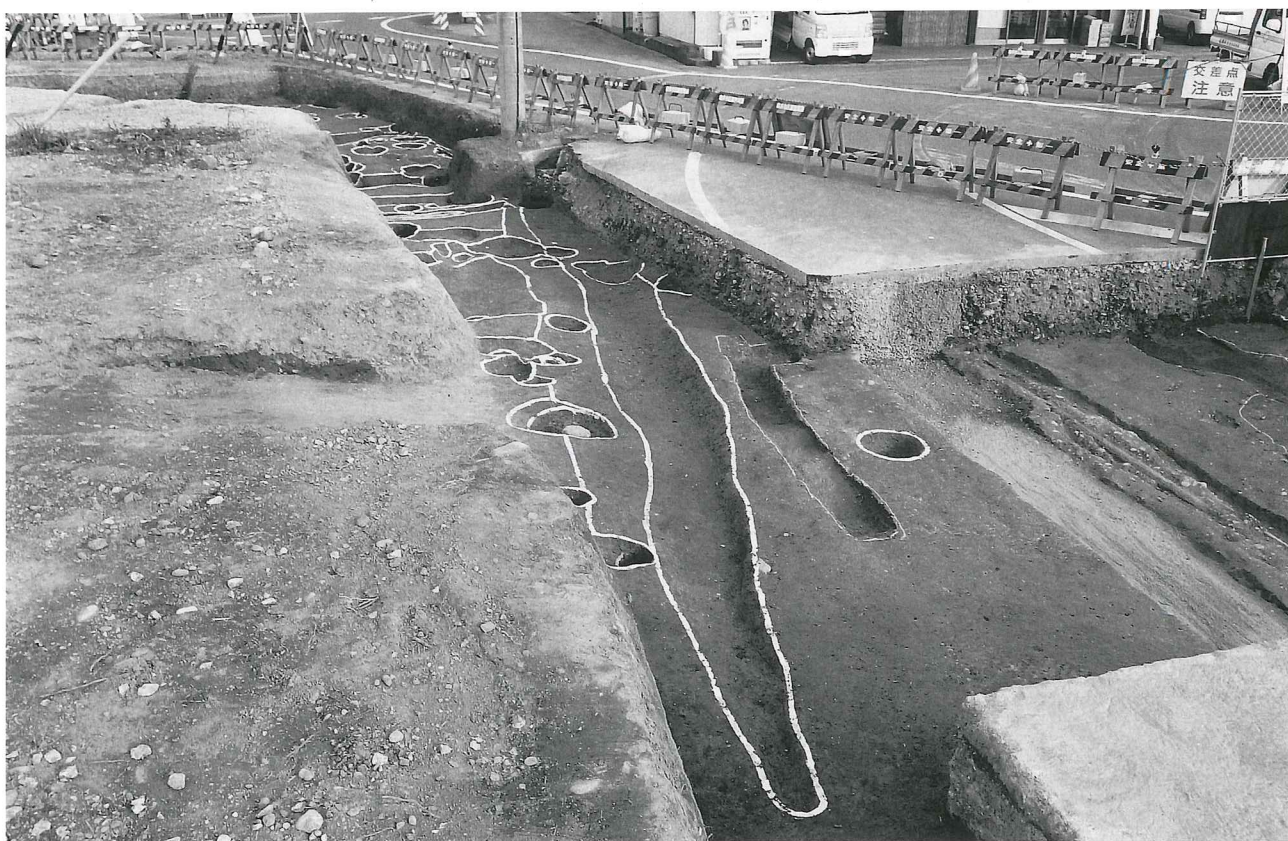
(弥生時代後期の竪穴住居で、中央に5箇所の炉跡と壁溝からも最低3回の建替えがあると見られる。東より)



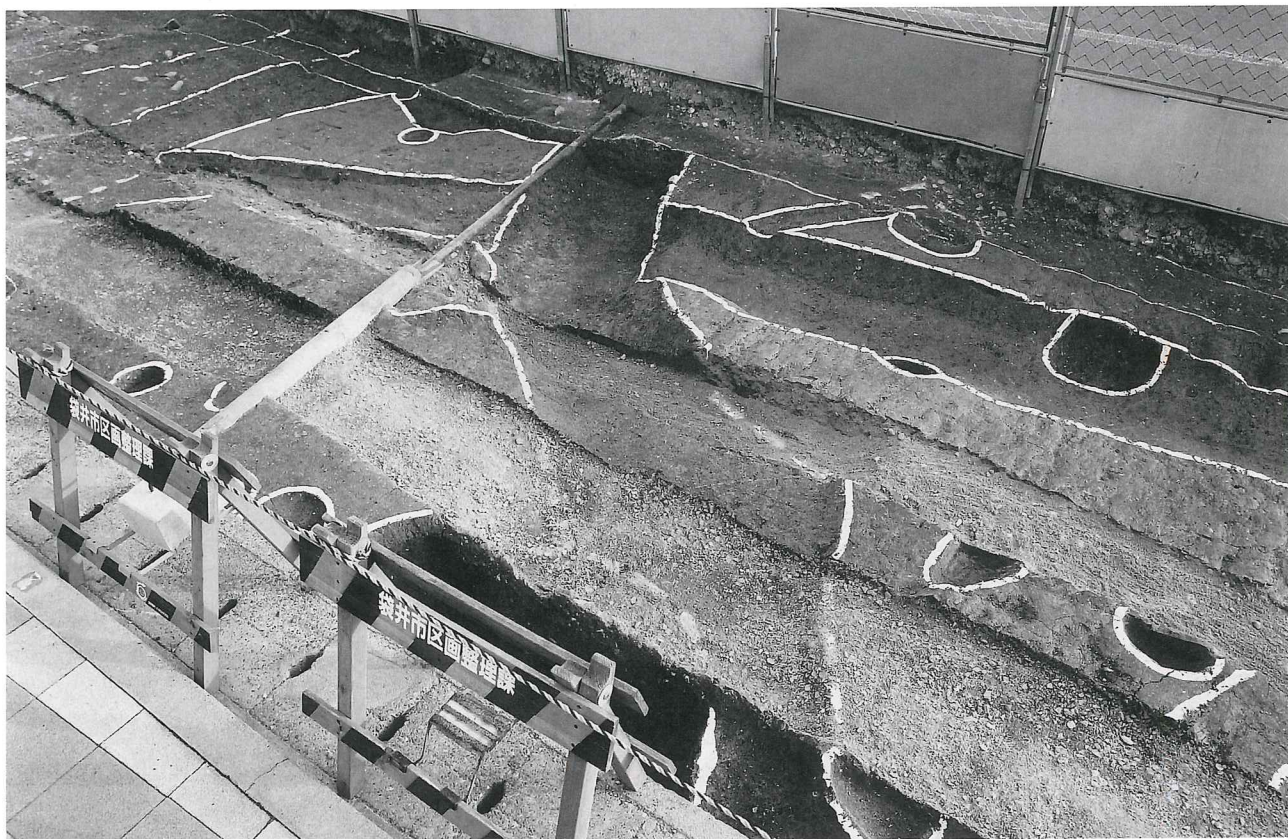
(2) S B14炉跡 (5箇所の炉はいずれも地床炉で、良く焼けている。西より)



(1) S B15 (柱穴のみの検出で、時期、形態とも不明である。東より)



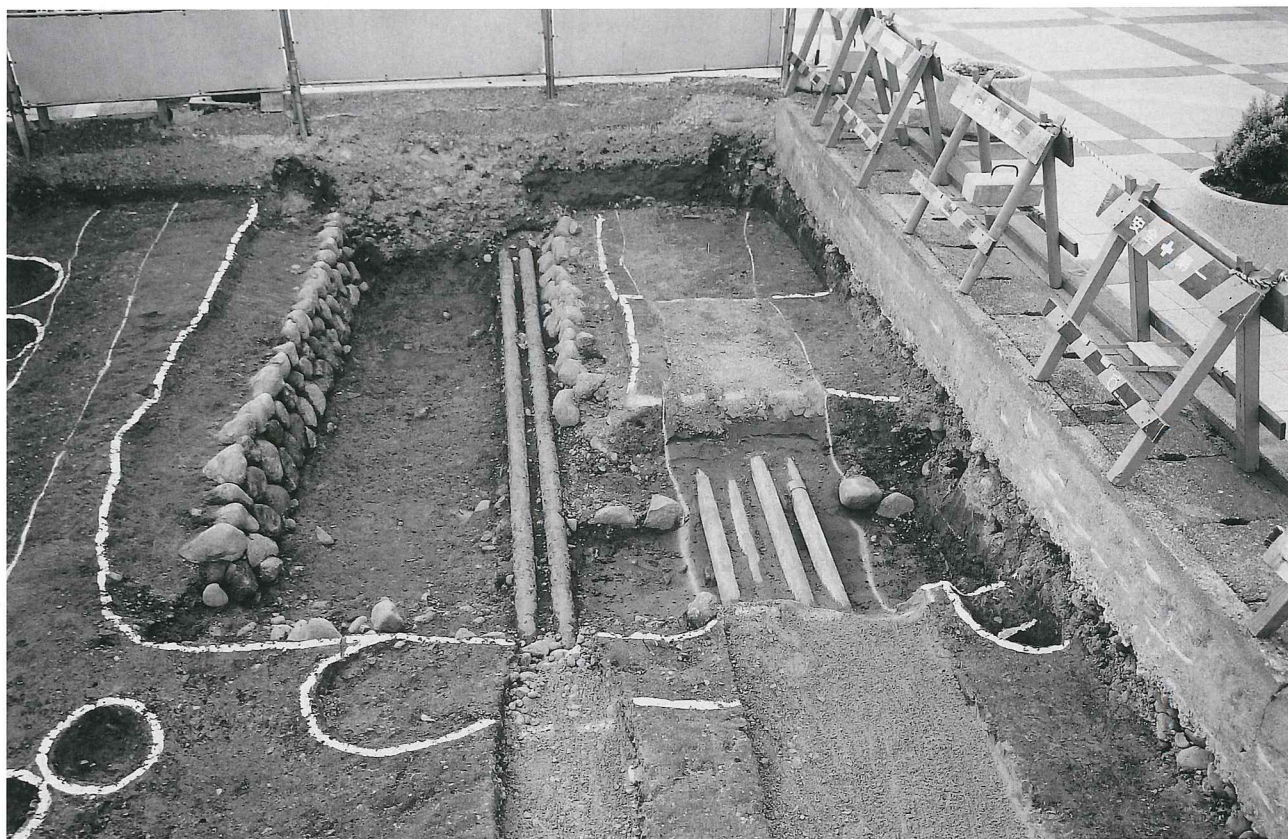
(2) S D19 (江戸時代末期の畑地の排水用の溝と見られる。西より)



(1) S D27 (弥生時代後期の溝で、蛇行しており排水用の溝と見られる。北西より)



(2) S D31
(窪地状の古墳時代後期までの遺物を出土する幅広の溝で、
奈良時代には埋め立てられ郡衙の正倉院が設置されている。北より)

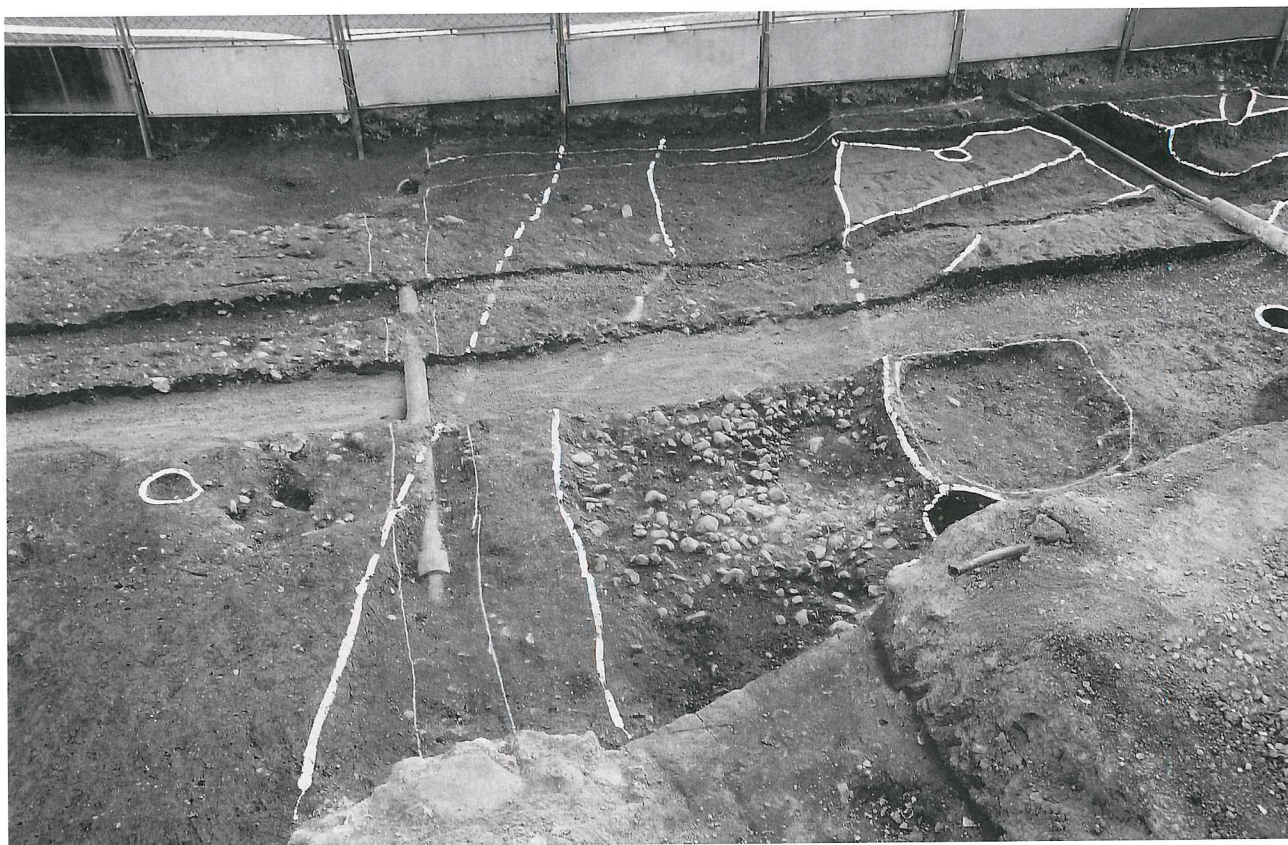


(1) S D4I (明治時代の屋敷地を区画する溝の南東コーナー部分である。東より)



(2) S D4I石垣

(円礫の落積による石垣である。屋敷地の南辺には道路と門があったせいか、綺麗な石垣が積まれている。東辺の溝の石垣は綺麗に積まれておらず、北辺の溝は石垣のない素堀の溝であった。北より)



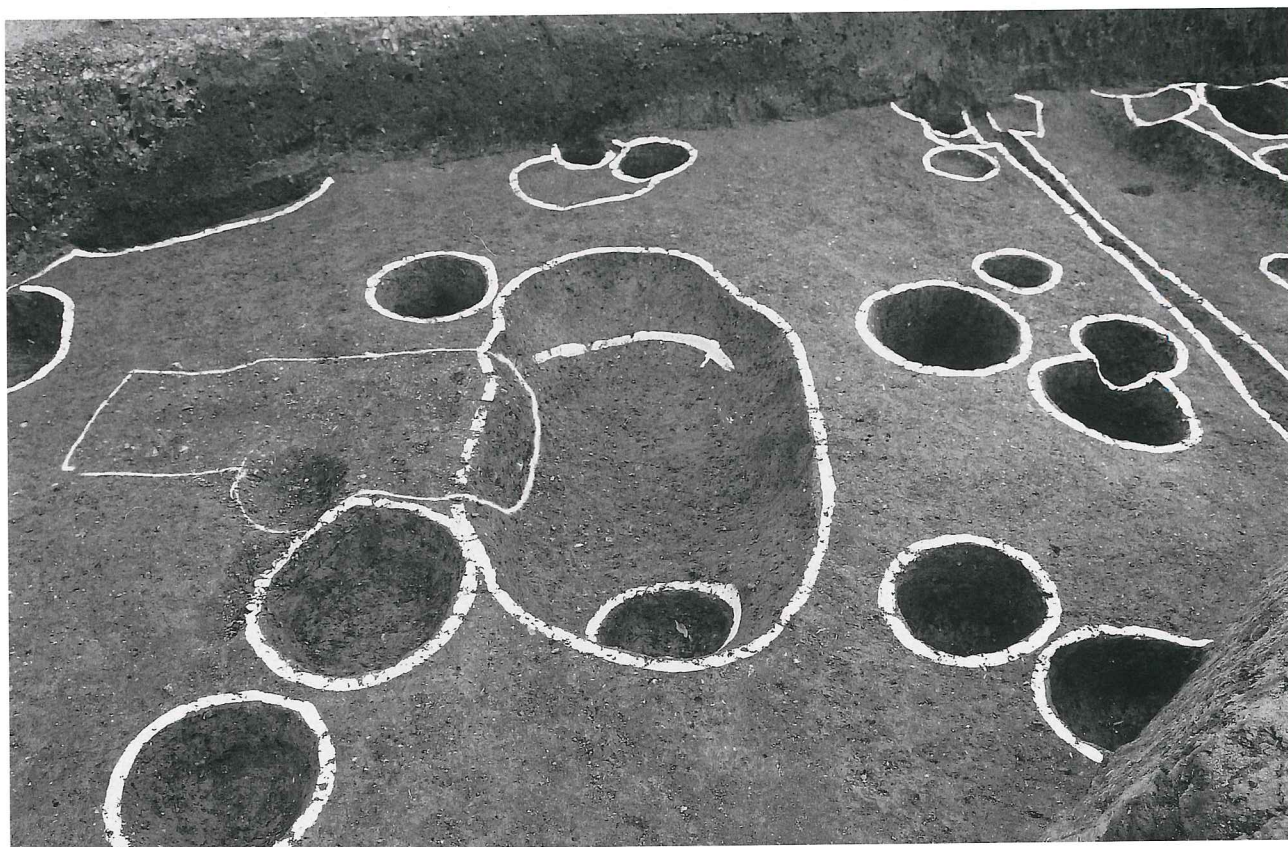
(1) S D42

(奈良時代の郡衙正倉院東辺を区画する溝で、段が存在することから2時期あると見られる。北より)



(2) S K62

(鎌倉時代の深い円形土坑で、井戸か水溜用と思われる。地下ケーブルのため半分破壊されている。南より)



(1) S K 64 (弥生時代後期の楕円形の土坑で、S B 14の周辺に見られる。北より)



(2) S P 15 (古墳時代後期の土師器を出土した深い小穴で、貯蔵穴と見られる。北より)



(1) 西半部分調査区S B14付近北壁土層
(厚さ20cmの包含層が見られるが、調査区全域には及ばない。南より)



(2) 重機による表土掘削作業
(西半部分では包含層がほとんど存在していないため、遺構確認面まで表土を除去した。)



(1) 作業員による遺構調査作業風景 (S B14付近での調査を進めている。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景

報告書抄録

フリガナ		カケノウエイセキ シヤシンズハンヘン				
書名		掛之上遺跡70・75・77 写真図版編				
副書名		袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書26				
編集著者名		松井一明				
編集機関名		袋井市教育委員会				
所在地		〒437-8666 静岡県袋井市浅名1208 ☎0538-23-9269				
発行年月日		2009年3月27日				
フリガナ 所収遺跡名		カケノウエイセキ 掛之上遺跡				
フリガナ 所在地		シズオカケンフクロイシタカオカケノウエ 静岡県袋井市高尾掛之上				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 44' 24"	137° 55' 53"	20080701	725.0㎡	袋井市駅前第二地区 土地区画整理事業に 伴う西通掛之上線・ 田端掛之上線道路建 設他
22216	151			～ 20090327		
所収遺跡名		種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
掛之上遺跡		集落跡	弥生時代 中・後期	竪穴住居 方形周溝墓 土坑	土器・石器	弥生時代 中・後期 拠点集落
			古墳時代 後期	竪穴住居 掘立柱建物	土器（土師器・須恵 器）	有力集落
			奈良時代	掘立柱建物 区画溝	須恵器	郡衙正倉 院関連
			戦国時代 近世	区画溝 地割溝	陶磁器 かわらけ 陶磁器 かわらけ	有力屋敷地

袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書26

掛之上遺跡 70・75・77

— 写真図版編 —

発行年月日 2009年3月27日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部区画整理課

〒437-8666 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0013 静岡県袋井市新屋4丁目5-2